



千葉学習センター



高知学習センター



大阪学習センター



山梨学習センター



福島学習センター



岐阜学習センター



鹿児島学習センター

放送大学 アニュアルレビュー 2017

The Open University of Japan
Annual Review 2017



本部



2017年度

学位記授与式

2018年3月24日(土)、2017年度学位記授与式を、東京・渋谷NHKホールにおいて挙行了た。卒業証書・学位記授与の後、來生新学長式辞、丹羽秀樹文部科学副大臣、野田聖子総務大臣(代読：奈良俊哉総務省大臣官房審議官)、津野和子放送大学同窓会連合会会長からの祝辞に続き、学部卒業生総代遠藤康伸さん(千葉学習センター)、修士課程修了生総代冢田三枝子さん(神奈川学習センター)、博士後期課程修了生総代横井正之さん(滋賀学習センター)による謝辞があった。その後学長表彰が行われ、全専攻または全コースを卒業した44名の『放送大学名誉学生』が表彰された。続いて、優れた教育活動を行った専任教員を、学生による授業評価や教員の推薦に基づき選考した『優秀授業賞』を森津太子教授が、『教育功績賞』を大場登教授が受賞した。2017年度の学部卒業生は5,706名、大学院修士課程修了生は322名、大学院博士後期課程修了生は8名であった。



CONTENTS

学長挨拶	2	国際交流の取り組み	20
特集	3	社会への貢献	22
オンライン授業	5	学習センターの活動、この1年	24
充実した教育内容	6	データで見る放送大学の概要	32
放送大学における研究	15		

【編集】

■放送大学アニュアルレビュー2017タスクグループ

生活と福祉/山内 豊明 教授	人間と文化/河原 温 教授	担当副学長/池田 龍彦
心理と教育/大山 泰宏 教授	情 報/中川 一史 教授	(オブザーバー)
社会と産業/河合 明宣 教授	自然と環境/石崎 克也 教授	■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2017」は、2017年4月～2018年3月の放送大学の活動を記録したものであり、本文に記載されている氏名・職名等は2017年度当時のものです。

Annual Review 2017の刊行に寄せて



2018年7月
学 長 新 生 來

2017年度は來生が岡部前学長から学長職を引き継いだ初年度であった。石前々学長時代から、学長が代わる度に、新学長が自らの任期を見据えた行動計画をアクションプランというタイトルで公表することが慣例となっていた。慣例にならない、來生も当初はアクションプランというタイトルで行動計画を公表することを考えていた。しかし、2017年度から新たに就任された有川理事長から、最近の一般的な傾向としてビジョンというタイトルを使うことが多いので、ビジョンというタイトルで学長の個人的な見解をより積極的に出す方が良いとのお勧めがあった。そのような経緯の中で、秋口に「Vision'17 一放送大学新時代一」を取りまとめ、12月1日に内外に公表した。

2017年の教育面での大きな出来事は、9月に博士課程の第1期入学者から4名の学位授与者を出し、年度末の3月にも同じく4名の学位授与者を出したことである。職を持ちながら3年、あるいは3年と半年で博士の学位を取得された皆さんと、指導に当たられた教員の皆さんの並々ならない

努力に敬意を表したい。

また、2017年度には本学として2回目の大学機関別認証評価を受けた。2018年3月に大学改革支援・学位授与機構から、大学評価基準を満たしているとの評価を得たばかりではなく、個々の評価内容においても、総じて本学の2010年(1回目受審)以来の日常的な努力が高く評価されたと受け止めており、教職員の皆さんのこれまでの努力に感謝を表したい。

新規開設科目において、看護師特定行為研修制度の実施に対応する共通科目(2016年度第2学期3科目、2017年度第2学期残り5科目)を開講することができた。本学の科目を活用する指定研修機関も増えており、今後の一層の対応の充実を検討中である。

2017年度の実質的に最も大きな意味を持つ制度的意思決定は、2018年10月からの常時マルチチャンネル化であったと言える。231チャンネルと232チャンネルの区別、新チャンネルの理念と制度化、コンテンツ作りに向けての全学を上げての検討が行われた。

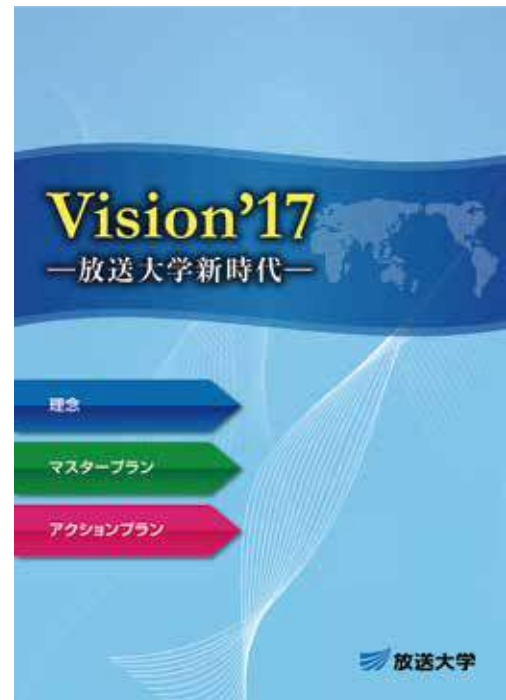
Vision' 17—放送大学新時代—

Vision' 17は、放送大学の学長として、放送大学の運営についての基本的な考え方、施策について大学の内外にご理解いただけるよう説明するものである。

その基本理念は、①長寿化、グローバル化の中で、教育格差を解消しうる高度の公開性を持つ、高等教育のセーフティネットたるべきこと、②国際的な競争の激化の中で、放送大学が学部から博士課程に至るまでの各課程において、これまで蓄積した遠隔教育技術を活用することによって、日本全国の大学の教養教育、先端的教育等の充実にこれまで以上に貢献すること、③国民の生涯を通じての教養水準の向上に貢献しうる生涯学習機関のリーダーたるべきこと、の3つである。

この基本理念に基づくVision' 17の内容は、(1) 教養教育の新時代(教育内容) (2) 教育方法の新時代(3) 学習センターの新時代(教育組織)という3つのマスタープランと、具体的な10のアクションプランからなっている。

https://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/action_plan.html



大学機関別認証評価の受審

2004年から導入された認証評価制度について、2010年度に続き2度目となる認証評価を受審した。

放送大学が作成した自己評価書を、2017年6月30日に認証評価機関である大学改革支援・学位授与機構に提出し、同年11月14日～15日の両日にわたって訪問調査を受けた。これに基づいて、2018年3月に「大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」との評価結果が確定・公表された。

併せて本学でも自己評価書並びに評価報告書をホームページに掲載した。

https://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/ninsyo_hyoka.html

■ 自己評価書の内容

I	大学の現況及び特徴
II	目的
III	基準ごとの自己評価
基準1	大学の目的
基準2	教育研究組織
基準3	教員及び教育支援者
基準4	学生の受入
基準5	教育内容及び方法
基準6	学習成果
基準7	施設設備及び学生支援
基準8	教育の内部質保証システム
基準9	財務基盤及び管理運営
基準10	教育情報等の公表

博士後期課程初の学位記授与

2017年9月、本学博士後期課程の第1期生4名が課程を修了し、博士(学術)の学位が授与された。教養教育を標榜する通信制大学における国内初の博士後期課程として、2014年10月に学生の受入れを始めて以降、初めての修了生である。

続いて2018年3月にも4名が修了し、2017年度は合計8名に学位が授与されることとなった。

放送大学の大学院教育の流れを振り返ると、2001年度に大学院修士課程が設置され、多くの職場や地域社会の問題に取り組む社会人の学生を指導し、一定の成果をあげてきた。

しかしながら、日本の社会がますます複雑化・多様化するに伴い、新たな問題に対処するため、修士課程教育以上の高度な教育・研究を望む声が年々高まっていた。

上記の要請に応え、地域社会・職場等のリーダーとなる実践的・高度社会人研究者、そして高い研究能力と知の発信能力を持った教養知識人研究者の2つのタイプを養成するために、博士後期課程が設置された。

なお、修了生の博士論文等については、放送大学機関リポジトリ「Manapio(まなぴお)」に掲載し、インターネットに公表している。



看護師特定行為研修対応科目の開設

特定行為に係る看護師の研修制度が2015年10月から施行され、放送大学では看護師の特定行為研修の共通科目(講義・演習部分)を大学院のオンライン授業として順次開設することとなった。2016年度第2学期に3

科目を開講し、2017年度第2学期には残りの5科目を開講した。2018年4月現在、共通科目として本学の科目を活用している指定研修機関は、12機関である。

オンライン授業

インターネットによる授業

2017年度開講科目として1学期に、新学習指導要領に向けた「小学校外国語教育教授基礎論('17)」を含めた7科目、2学期には2016年2学期に引き続き特定行為に係る看護師のための研修制度に対応する科目を含

めた6科目、計13科目を開講(累計26科目運用)した。また科目制作においては、2018年度に開講の教養学部5科目、大学院修士課程7科目を制作した。

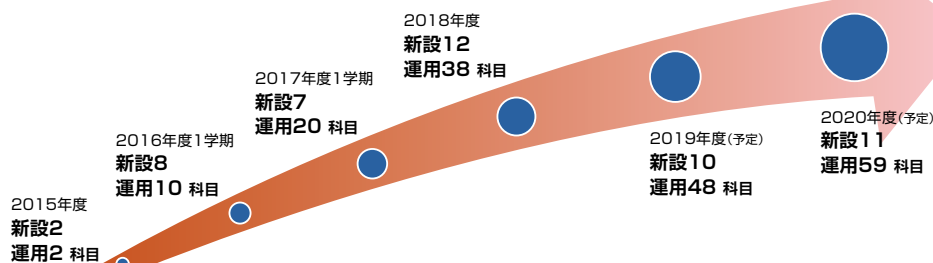
2017年度教養学部 新規開設科目

開講学期	コース		科目名	単位数
1学期	基盤科目		小学校外国語教育教授基礎論('17)	2単位
1学期	生活と福祉／心理と教育	専門科目	女性のキャリアデザインの展開('17)	1単位
1学期	心理と教育	導入科目	学校と社会を考える('17)	2単位
1学期	心理と教育／人間と文化	専門科目	生涯学習を考える('17)	2単位
1学期	人間と文化	専門科目	フィールドワークと民族誌('17)	2単位

2017年度大学院修士課程 新規開設科目

開講学期	コース		科目名	単位数
1学期	情報学		データの科学('17)	2単位
1学期	情報学		研究のためのICT活用('17)	2単位
2学期	生活健康科学		臨床病態生理学特論('17)	1単位
2学期	生活健康科学		疾病・臨床病態概論('17)	2単位
2学期	生活健康科学		臨床薬理学特論('17)	1単位
2学期	生活健康科学		特定行為実践特論('17)	1単位
2学期	生活健康科学		特定行為共通科目統合演習('17)	1単位
2学期	社会経営科学		イランとアメリカ('17)	2単位

■ オンライン授業制作科目・コマ数の推移見込



	2015			2016			2017			2018	2019
	1学期	2学期	(計)	1学期	2学期	(計)	1学期	2学期	(計)	(予定)	(予定)
制作科目数 (コマ数)	8 (92)	3 (24)	11 (116)	7 (98)	6 (62)	13 (160)	12 (159)	—	12 (159)	10 (136)	11 (102)
運用科目数 (コマ数)	2 (16)	—	2 (16)	10 (108)	3 (24)	13 (132)	20 (230)	6 (62)	26 (292)	38 (451)	48 (587)

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業、オンライン授業と並び、放送大学の教育の中心に位置づけられるものである。

2017年度第2学期(2017年10月~2018年3月)には、学部273科目、大学院63科目の合計336科目を開設しており、原則として4年間(毎年2学期ずつ、合計8学期間)放送している。したがって、全開設科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2017年度の新規開設科目は、学部50科目(テレビ31

科目、ラジオ19科目)、大学院14科目(ラジオ14科目)の合計64科目である。

2017年度全開設科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	153	119	154	119
	272		273	
大学院	13	50	13	50
	63		63	
合計	166	169	167	169
	335		336	

2017年度新規開設科目一覧(学部) (TV=テレビ、R=ラジオ)

科目区分	科目名称	メディア
基盤科目	日本語アカデミックライティング('17)	R
	遠隔学習のためのパソコン活用('17)	TV
基盤科目(外国語)	英語事始め('17)	R
	初歩のスペイン語('17)	R
	初歩のイタリア語('17)	TV
	健康と社会('17)	R
生活と福祉	導入科目	
	疾病の成立と回復促進('17)	TV
	疾病の回復を促進する薬('17)	TV
	睡眠と健康('17)	R
	人口減少社会の構想('17)	TV
	専門科目	
	ソーシャルシティ('17)	TV
	在宅看護論('17)	TV
	障害を知り共生社会を生きる('17)	TV
	心理と教育	
導入科目		
発達心理学概論('17)	R	
危機の心理学('17)	TV	
現代社会の児童生徒指導('17)	TV	
子ども・青年の文化と教育('17)	R	
専門科目		
比較認知科学('17)	R	
心理統計法('17)	TV	
乳幼児・児童の心理臨床('17)	TV	
精神分析とユング心理学('17)	R	
交通心理学('17)	TV	
総合科目		
色と形を探究する('17)	TV	
社会と産業	導入科目	
	環境問題のとらえ方と解決方法('17)	R
	技術経営の考え方('17)	R
	専門科目	
	雇用社会と法('17)	R
	日本政治思想史('17)	R
	アジア産業論('17)	R
	NPOマネジメント('17)	R
	現代の内部監査('17)	TV
	マーケティング論('17)	TV
	ファイナンス入門('17)	TV
	物質・材料工学と社会('17)	TV
	家族と高齢社会の法('17)	TV

科目区分	科目名称	メディア
社会と産業	専門科目	民法('17) R
人間と文化	専門科目	舞台芸術の魅力('17) TV
		現代フランス哲学に学ぶ('17) R
		日本の古代中世('17) TV
情報	専門科目	日本文学の名作を読む('17) R
		コンピュータの動作と管理('17) TV
		問題解決の数理('17) TV
		教育のためのICT活用('17) TV
自然と環境	導入科目	データベース('17) TV
	物理の世界('17) TV	
	専門科目	化学結合論—分子の構造と機能('17) TV
		初歩からの宇宙の科学('17) TV
		化学反応論—分子の変化と機能('17) TV
		微分方程式('17) TV
		線型代数学('17) R
	生物の進化と多様化の科学('17) TV	

2017年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	生活リスクマネジメント('17)	R
	健康・スポーツ科学研究('17)	R
人間発達科学	カリキュラム編成論('17)	R
	教育文化の社会学('17)	R
	成人発達心理学('17)	R
臨床心理学	臨床心理学特論('17)	R
	心理臨床における法と倫理('17)	R
社会経営科学	経済政策('17)	R
	公共哲学('17)	R
	公共政策('17)	R
	現代訴訟法('17)	R
人文学	東アジア近世近代史研究('17)	R
	異言語との出会い('17)	R
情報学	音楽・情報・脳('17)	R

インターネットラジオ(radiko.jp)

2012年度から、ラジオ科目をパソコンやスマートフォンなどで放送と同時に聴取できる「radiko」

(ラジコ)も利用可能となっている。

特集

オンライン授業

教育

研究

国際交流

社会貢献

学習センター

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2017年度は新規開設12講義(テレビ5講義、ラジオ7

講義)を含む、全91講義(テレビ35講義、ラジオ56講義)の特別講義を放送した。

2017年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会 ～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	TV
文人精神の系譜—与謝蕪村から吉増剛造まで—	恵泉女学園大学特任教授・詩人 林 浩平	TV
ノーベル賞科学者の軌跡I 私が感化された教育とは	名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長・名古屋大学特別教授 益川 敏英 東京大学宇宙線研究所長・東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章	TV
ノーベル賞科学者の軌跡II どう鍛えられ研究を深めたか	名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長・名古屋大学特別教授 益川 敏英 東京大学宇宙線研究所長・東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章	TV
トップアスリートのメンタルに学べ	スポーツメンタルトレーニング上級指導士・ ソウル五輪シクロアイス・トスミング・デュエット銅メダリスト 田中 ウルヴェ 京	TV
箏曲の世界～宮城道雄の残したもの～	元東京藝術大学教授・学術博士 安藤 政輝	R
困ったら、頼っていいんだよ～孤立する子どもたちに私たちができること～	NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵	R
急増するうつ病:人間の孤独とコミュニティの視点から	放送大学副学長 宮本 みち子 放送大学教授 石丸 昌彦 放送大学教授 広瀬 洋子	R
インド・現代世界の縮図—経済成長と民主主義—	元アジア経済研究所地域研究部長 佐藤 宏	R
医療・健康で地域をつなぐ	大阪産業大学教授 佐藤 真治	R
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教	R
ライフ・イノベーションからの利益の帰属と倫理	政策研究大学院大学教授 隅藏 康一	R

2017年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
森鷗外と明治の青春—『青年』を中心に—	放送大学教授 島内 裕子 森鷗外記念会顧問・跡見学園理事長 山崎 一穎	TV
古代アンデス文明と日本人	放送大学教授 稲村 哲也 東京大学名誉教授 大貫 良夫	TV
薩摩硫黄島の熊野三山と『平家物語』	國學院大學教授 野中 哲照	TV
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学客員教授 関根 千佳 放送大学教授 広瀬 洋子	TV
公共人類学—人類学の社会貢献—	東京大学名誉教授・帝京平成大学教授 山下 晋司	TV
伝承芸能の魅力～薩摩川内市の東郷文弥節人形浄瑠璃～	鹿児島大学名誉教授 中山 右尚 國學院大學教授 野中 哲照	TV
外邦図—軍事情報から近代資料へ—	大阪大学名誉教授・大阪観光大学教授 小林 茂	TV
画文共鳴～文学と美術の交流～	甲南大学文学部教授 木股 知史	TV
謎の石塔“薩摩塔”	慶應義塾大学教授 中島 圭一	TV
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか～多彩な知が真相に迫る～	高知工科大学名誉教授 赤澤 威	TV
地域包括ケアの理論と実践	慶應義塾大学名誉教授 田中 滋 東京大学特任教授 辻 哲夫 放送大学教授 田城 孝雄	TV
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし ～本当は豊かな性のあり方～	東京大学大学院専任講師 石丸 徑一郎	TV
女性アスリートの育成と支援、その課題	順天堂大学大学院教授 小笠原 悦子	TV
自然災害では死なせない～ある災害社会工学者の格闘～	群馬大学大学院教授 片田 敏孝	TV
東日本大震災復興支援と地域福祉	日本福祉大学教授 平野 隆之 日本福祉大学教授 原田 正樹	TV
未来への教訓～検証・福島第一原発事故～	社会技術システム安全研究所所長 田辺 文也	TV
災害に安全なまちとすまい	東京工業大学名誉教授 和田 章	TV
「紛争予防学」とは何か	東京外国語大学大学院教授 伊勢崎 賢治	TV
フォトジャーナリズムとは何か	フォトジャーナリスト 広河 隆一	TV
エンジニアが映像で挑む! ～トップアスリート強化～	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部 専門研究員 三浦 智和	TV
イギリスの科学教育に学ぶ	東京工業大学名誉教授 市村 禎二郎 東京工業大学名誉教授・津田塾大学客員教授 酒井 善則	TV
正確な時計は基礎科学を開く窓	国立研究開発法人情報通信研究機構 理事 細川 瑞彦 国立研究開発法人情報通信研究機構 時空標準研究室長 花土 ゆう子	TV

2017年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	富山大学大学院准教授 中林 美奈子 放送大学教授 田城 孝雄	TV
海底に探るエネルギー資源～日本海・メタンハイドレート～	明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 松本 良	TV
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康 —高所適応とグローバル化による攪乱—	放送大学教授 稲村 哲也 京都大学連携教授 奥宮 清人	TV
脳波で動く 1/f ゆらぎ癒しロボット	茨城大学名誉教授 白石 昌武	TV
遷移金属触媒の魔法の力～サステイナブルな21世紀への鍵～	パデュエ大学特別教授 根岸 英一	TV
ウナギ 大回遊の謎を追う	日本大学教授 塚本 勝巳	TV
自分がわかる細胞健康科学 ～細胞・身体連携力学応答機構とスローエクササイズ効果～	東京大学名誉教授 跡見 順子	TV
細胞の声を聞く	京都大学大学院教授 高橋 淑子	TV
オリンピックボランティアの世界 ①誕生と貢献の歴史	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	R
オリンピックボランティアの世界 ②東京で夢をかなえる	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	R
編集者漱石 ①編集者子規	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	R
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	R
人間発達と初期環境	お茶の水女子大学名誉教授 藤永 保	R
私、あきらめない!! ～車いす女優・萩生田千津子の原点～	女優 萩生田 千津子	R
私、舞台を降りない!! ～車いす女優・萩生田千津子の世界～	女優 萩生田 千津子	R
メディアと与謝野晶子	歌人 松村 由利子 放送大学教授 広瀬 洋子	R
心に響く音文化(おんぶんか) 第1回「民族音楽学への招待」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男	R
心に響く音文化(おんぶんか) 第2回「中東の音文化」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男	R
幻の私小説家・藤澤清造	作家 西村 賢太	R
つなぐ言葉としての方言—3.11被災地から—	東北大学大学院教授 小林 隆	R
音楽表現と情報環境	音楽家 タケカワ ユキヒデ	R
ことばの礼儀作法 第1回「日常会話の点検(前編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹	R
ことばの礼儀作法 第2回「日常会話の点検(後編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹	R
口語で読み解く「出雲神話」第1回「スサノの世界」	千葉大学名誉教授 三浦 佑之	R
口語で読み解く「出雲神話」第2回「オホクニマシの世界」	千葉大学名誉教授 三浦 佑之	R
御国言葉で「よきたより」～心に響く聖書の和訳を求めて～	医師 山浦 玄嗣	R
野口英世を支えた4人の女性たち～猪苗代からアフリカまで～(1)	ノンフィクション作家 山本 厚子	R
野口英世を支えた4人の女性たち～猪苗代からアフリカまで～(2)	ノンフィクション作家 山本 厚子	R
弔うことの意味	宗教学者 島田 裕巳	R
万葉びとの生活と心情	奈良大学教授 上野 誠	R
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏	R
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	R
障害者差別解消法と差別を解消するための研修について	放送大学教授 広瀬 洋子 国際協力機構国際協力専門員 久野 研二 日本障害者リハビリテーション協会研修課課長 奥平 真砂子	R
オーラル・ヒストリーの課題と展望	放送大学客員教授 御厨 貴 東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原 出	R
「まぜこぜ社会」が世界を変える	女優、一般社団法人Get in touch理事長 東 ちづる 放送大学客員教授 井上 洋士	R
患者とともに生きる医療	東京大学名誉教授(三井記念病院院長) 高本 眞一	R
幕末の日本人が見たアメリカ ～万延元年遣米使節の異文化理解～	大正大学名誉教授 鈴木 健次	R
東日本大震災からの復興に携わって—復興構想会議を中心に—	神戸大学名誉教授 五百旗頭 真	R
記憶を記録に／津波で失われた写真の回収、修復、保存、返還作業	放送大学教授 高橋 和夫	R
日本型近代家族	武蔵大学教授 千田 有紀	R
科学技術倫理と著作権	放送大学教授 児玉 晴男	R
原子力情報の公開と情報公開法	獨協大学法科大学院特任教授 三宅 弘	R
阪神・淡路大震災と東日本大震災	大阪大学名誉教授 林 敏彦	R
アメリカの里親制度	活水女子大学教授 園井 ゆり	R
原発事故と農業～それでも農民は種を播いた	茨城大学名誉教授 中島 紀一	R
アマルティア・センの現代インド論	元アジア経済研究所地域研究部長 佐藤 宏	R
インドネシアの経済発展とエネルギー・環境政策	和光大学教授 バンバン・ルディアント	R
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明	R
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	R
脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ①部品の科学と全体としての脳	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	R

特集

オンライン授業

教育

研究

国際交流

社会貢献

学習センター

2017年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	R
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか～交替劇プロジェクトの探究～	高知工科大学名誉教授 赤澤 威	R
物理学における対称性とその破れ	高エネルギー加速器研究機構特別名誉教授 小林 誠	R
岡潔の生涯と学問	九州大学教授 高瀬 正仁	R
放射線はどうして怖いのか、怖くないのか	日本医科大学教授 太田 成男 放送大学名誉教授 濱田 嘉昭	R
モーツァルトがあなたを癒す～謎解き! 音楽療法～	埼玉医科大学教授 和合 治久	R
漢詩をうたう	和光大学講師 莊 魯迅	R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ(キャンパス・ネットワーク・ホームページ)で、放送授業のインターネット配信(ストリーミング配信)を開始した。配信科目数は年々拡充しており、ラジオ科目ではすべての科目をインターネット配信している。2017年度の配信科目数は、

テレビ170科目、ラジオ175科目、特別講義89講義である。

2017年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
放送授業	170	175
特別講義	33	56
合計	203	231

寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2017年度には、3科目の寄附科目を放送した。

2017年度開設寄附科目一覧

科目名	寄附団体名	メディア
著作権法概論('06)('10)('14)	日本音楽著作権協会	R
現代の内部監査('17)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行('10)('14)	全国銀行協会	TV

対面による授業

面接授業(スクーリング)

面接授業は、放送授業、オンライン授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2017年度は、3,276科目(1学期1,645科目、2学期1,631科目)を開講している。

放送大学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、ともに学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

また、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック間の学習センターが連携し、リレー形式でも開講した。

2014年度から、入学生も出願手続きの際、一定の条件を満たせば、入学学期当初から面接授業を登録申請できるよう制度を改正した。

さらに、学生ニーズの高い認定心理士資格取得に必要な「心理学実験科目」を、東京文京学習センターにおいて連日授業を開設する特別開設を開始している。

このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう常に制度の見直し、学生サービスの向上を図っている。



愛媛学習センター「食と生活習慣」



大阪学習センター「上方講談と大坂の陣」

オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された放送大学は、オープンコー

スウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として参加した。放送大学の放送授業は全部で約330科目あり、2014年度からはほとんどの授業科目について、1番組または全15番組をインターネットで無償公開している。

2017年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)一覧

テレビ授業科目		ラジオ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
疾病の成立と回復促進('17)	岡田 忍 / 佐伯 由香	睡眠と健康('17)	宮崎 総一郎 / 林 光緒
現代社会の児童生徒指導('17)	古賀 正義 / 山田 哲也	環境問題のとりえ方と解決方法('17)	岡田 光正 / 藤江 幸一
家族と高齢社会の法('17)	川島 志保 / 関 ふ佐子	日本文学の名作を読む('17)	島内 裕子
現代の内部監査('17)	齋藤 正章 / 蟹江 章	線型代数学('17)	隈部 正博
日本の古代中世('17)	佐藤 信 / 近藤 成一	生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
コンピュータの動作と管理('17)	葉田 善章	音楽・情報・脳('17)	仁科 エミ / 河合 徳枝
問題解決の数理('17)	大西 仁	看護学概説('16)	井出 訓 / 井上 洋士
物理の世界('17)	岸根 順一郎 / 松井 哲男	社会保険のしくみと改革課題('16)	田中 耕太郎
Waking with Writers('16)	井口 篤 ステュウット・ヴァーナム・アットキン	アントロピーからはじめる熱力学('16)	安池 智一 / 秋山 良
データの分析と知識発見('16)	秋光 淳生	アルゴリズムとプログラミング('16)	鈴木 一史
ユーザ調査法('16)	黒須 正明 / 高橋 秀明	CGと画像合成の基礎('16)	浅井 紀久夫
社会福祉への招待('16)	岩田 正美	生活経済学('16)	重川 純子
世界文学への招待('16)	宮下 志朗 / 小野 正嗣	政治学へのいざない('16)	御厨 貴 / 山岡 龍一
ダイナミックな地球('16)	大森 聡一 / 鳥海 光弘	音を追究する('16)	大橋 理枝 / 佐藤 仁美
入門微分積分('16)	石崎 克也	精神医学特論('16)	石丸 昌彦 / 広瀬 宏之
ヨーロッパの歴史I('15)	草光 俊雄 / 甚野 尚志	計算論('16)	隈部 正博
量子と統計の物理('15)	米谷 民明 / 岸根 順一郎	データベースと情報管理('16)	柳沼 良知 / 三輪 眞木子
Webのしくみと応用('15)	森本 容介	道を極める—日本人の心の歴史('16)	魚住 孝至
環境の可視化('15)	梅干野 晃 / 中村 恭志	教育学入門('15)	岡崎 友典 / 永井 聖二
食健康科学('15)	小城 勝相 / 清水 誠	高齢期の生活と福祉('15)	山田 知子
場と時間空間の物理('14)	米谷 民明 / 岸根 順一郎	日本の教育改革('15)	小川 正人 / 岩永 雅也
コンピュータのしくみ('14)	岡部 洋一	韓国朝鮮の歴史('15)	吉田 光男
人的資源管理('14)	原田 順子 / 奥林 康司	自然言語処理('15)	黒橋 禎夫
地域社会の教育的再編('12)	岡崎 友典 / 夏秋 英房	健康科学('15)	田城 孝雄 / 星 旦二
デジタル情報の処理と認識('12)	柳沼 良知 / 鈴木 一史	数理学('15)	石崎 克也
市民生活と裁判('12)	來生 新 / 川島 清嘉	コンピューティング('15)	川合 慧 / 萩谷 昌己
計算事始め('13)	川合 慧	哲学への誘い('14)	佐藤 康邦
初歩からの数学('12)	隈部 正博	リスク社会のライフデザイン('14)	宮本 みち子 / 岩上 真珠
		感染症と生体防御('14)	田城 孝雄, 北村 聖
		社会心理学('14)	森 津太子
		福祉政策の課題('14)	大曾根 寛

2017年度オープンコースウェア科目(特別講義)一覧

テレビ特別講義		ラジオ特別講義	
科目名	講師	科目名	講師
第九を楽しむ放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会 ～東京藝術大学楽奏堂～	山本 純 / 介 茂木 一衛	箏曲の世界～宮城道雄の残したもの～	安藤 政輝
文人精神の系譜—与謝蕪村から吉増剛造まで—	林 浩平	困ったら、頼っていいんだよ～孤立する子どもたちに私たちができること～	森山 誉恵
ノーベル賞科学者の軌跡I私が感化された教育とは	益川 敏英 / 梶田 隆章	急増するうつ病:人間の孤独とコミュニティの視点から	宮本 みち子 / 石丸 昌彦 広瀬 洋子
ノーベル賞科学者の軌跡IIどう鍛えられ研究を深めたか	益川 敏英 / 梶田 隆章	インド・現代世界の縮図—経済成長と民主主義—	佐藤 宏
森鷗外と明治の青春—「青年」を中心に—	島内 裕子 / 山崎 一穎	医療・健康で地域をつなぐ	佐藤 真治
エンジニアが映像で挑む!～トッパースリット強化～	三浦 智和	現代社会におけるイノベーションの意味	吉川 智教
イギリスの科学教育に学ぶ	市村 禎二郎 / 酒井 善則	ライフ・イノベーションからの利益の帰属と倫理	隅藏 康一
正確な時計は基礎科学を開く窓	細川 瑞彦 / 花土 ゆう子	オリンピックボランティアの世界①誕生と貢献の歴史	市居 愛
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	中林 美奈子 田城 孝雄	オリンピックボランティアの世界②東京で夢をかなえる	市居 愛
		編集者漱石①編集者子規	長谷川 郁夫 / 草光 俊雄
		編集者漱石②朝日新聞の時代	長谷川 郁夫 / 草光 俊雄
		終活学 満足して人生を終える	長尾 和宏
		江戸農書からみる 現代農業と日本社会	徳永 光俊
		ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	黒須 正明
		食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	佐藤 洋
		脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ①部品の科学と全体としての脳	糸川 昌成
		脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ②家族の旅から回復を体験すること	糸川 昌成

放送大学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、様々な学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2017年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は104科目あり、これは全テレビ科目の約62%に当たる。特別講義についても35科目全てに字幕を付して放送を行った。また、インターネット配信では、2016年度第2学期に、89テレビ科目・42テレビ

特別講義で字幕付き配信、4ラジオ科目・1ラジオ特別講義で字幕付加実験を行った。

さらに、単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。例えば、2017年度第2学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は136科目で、対象となった学生数は延べ198名であった。また、点字での出題対象科目数は76科目であり、対象となった学生数は延べ104名であった。

科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修した学生に対して、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再

スタートしている。

当初10プランで始まった本制度は、その後、年々新しいプランを開設し、2017年度現在計28プランとなっている。

2018年3月31日までの累計認証取得件数は23,545件にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

2017年度認証プランと認証状取得者数(2018年3月31日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数	認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,488	16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	627
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,297	17 生命科学プラン	生命人間科学	803
3 社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,200	18 環境科学プラン	環境科学の基礎	691
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	729	19 社会数学プラン	数学と社会	359
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	3,154	20 エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	297
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	1,605	21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,138
7 社会探究プラン	現代社会の探究	557	22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,337
8 市民活動支援プラン	市民政策論	575	23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	507
9 実践経営学プラン	経営の理解	555	24 工学基礎プラン	工学基礎	309
10 ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	318	25 人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザインプラン	94
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,178	26 計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	148
12 コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	310	27 地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	282
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,000	28 日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成~2020年ボランティア・ガイド~	18
14 アジア研究プラン	アジア研究	418			
15 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	551	合計		23,545

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2017年度には、新たに9校の大学と単位互換協定を締結し、合計396校となった。

2017年度に締結した単位互換協定締結校

大学名	大学名	大学名
三育学院大学	聖泉大学	平成医療短期大学
福井医療大学	京都ノートルダム女子大学	青森明の星短期大学
森ノ宮医療大学	健康科学大学	佐久大学大学院

専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。2017年度も新たに8校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で45校となった。

2017年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名	学校名
浦添看護学校	都城リハビリテーション学院
東京メディカル・スポーツ専門学校	静岡工科自動車大校
湘中央学技術専門学校	那覇看護専門学校
湘中央生命科学技術専門学校	新潟看護医療専門学校

キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得等のために活用することができる。

- 看護師国家試験受験資格 ● 教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状 ● 学校図書館司書教諭資格 ● 特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域) ● 養護教諭免許状 ● 栄養教諭免許状 ● 学芸員資格 ● 社会教育主事任用資格 ● 社会福祉主事任用資格 ● 介護教員講習会の対応科目 ● 看護師の特定行為研修制度対応科目

博物館実習について、2012年度から岐阜女子大学、2016年度から東京情報大学、2017年度から四国大学、九州産業大学との連携による博物館実習を開講した。こ

れは、一定の要件を満たした放送大学の学生がそれぞれの大学で博物館実習を受講できるものであり、2017年度には全国から43名の学生が受講した。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、放送大学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)実施することとしており、2017年度の講習では、約12,900人の受講者が、延べ約58,000科目を受講した。

学生の研究成果の公開

放送大学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。2017年度は、2016年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」25点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を

2005年3月から刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2018年3月刊行の第14号には2016年度修了生全324名の研究成果の中から、論文11点、研究ノート41点が掲載されている。



Open Forum 14号

より質の高い教育を目指して

じっくり3年かけて授業科目を作成

本学では毎年、何十もの放送授業を新たに開設している。一つの放送授業を開設したら、4年から6年程度で内容の見直しをするからである。閉講して別の放送授業を新設する場合もあれば、既存の内容に新しい情報を加えて改訂する場合もある。そのため、放送授業を担当する講師は、次はどのような内容にするか、どの講師と一緒に教材をつくるかを考えていかなければならない。

下の図のように、授業開始（開講）の3年ほど前から構想を練りはじめ、「このような科目をつくりたい」と大学側に提案する。科目開設が決定すると、「主任講師会議」を開いてスケジュールの確認、編集者等との顔合わせをする。

印刷教材は、授業番組の回数に合わせて15章で構成されており、担当する講師が分担して執筆する。主な内容や分担を決め、締切などのスケジュールを確認したら、原稿執筆に取りかかる。原稿の締切は、授業開始のおよそ1年前。

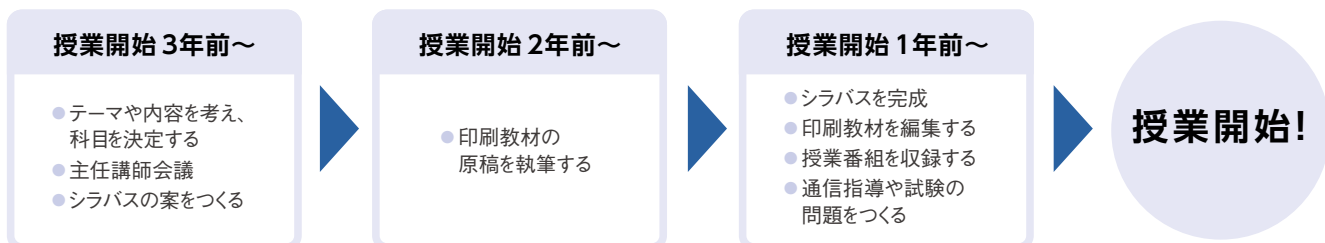


主任講師会議

開講の1年前から、授業番組づくりに入る。スタッフの多くは、教育番組等を制作してきたベテラン。プロデューサーやディレクターと打ち合わせをし、どのような番組構成にするかを決めていく。そして、必要な素材を集め、台本をもとにスタジオでの収録に臨む。

このように約3年間をかけ一つの授業科目は作成される。

授業科目づくりの主な流れ



FD(Faculty Development)の取り組み

FD(Faculty Development)の一環として、2018年3月14日(水)にFD委員会主催による講演会を開催した。今年度は、「オンライン授業の現状と今後」をテーマとし

て、オンライン教育課による概要説明等ののち、参加教員によるグループ討議を行い、各グループ代表者による発表を経て、全体討論を実施し、活発な議論が行われた。

ICTを活用した教育の支援

遠隔会議サービスによる修士課程ゼミ

放送大学の授業には放送授業、オンライン授業及び面接授業が存在するが、一方で、卒業研究や修士課程・博士後期課程での研究指導(論文執筆指導)も行われている。

放送大学の学生は全国各地にいるため、遠隔の研究指導を受ける学生のために、ウェブ会議サービスを整備している。このサービスは、ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダ)方式で(株)ブイキューブと契約をしている。これは、学内にテレビ会議システム用のサーバを保有・運営するのではなく、ウェブ会議用のサーバを利用する権利を契約によって取得する方式である。放送大学のように、利用が週末に集中する環境では、専門的な知識や保守を学内で行う必要がないASP方式のメリットが高い。

実際には、遠隔による研究指導やゼミを行うことが決まり次第、専任教員が実施日と時間を定めて利用申請を行う。その後、事業者のサーバを利用するために必要なURLと「ゼミID」が発行される。ゼミの参加者は

パソコンのウェブブラウザで指定されたURLを開いて「ゼミID」を入力すると、パソコン内蔵(あるいは外付)のビデオカメラとマイクロフォンからの映像と音声、ウェブ会議サービスの中に投影される。参加者のパソコンに専用のソフトウェアをインストールしなくても、気軽に参加できるというメリットがある。また、タブレットで使う場合には、このウェブ会議サービス専用のアプリがあり、パソコンよりも簡単な手順で利用可能となっている。



ウェブ会議サービスの画面

ソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用した交流

放送授業での学習は、自宅や学習センターで、一人で学ぶことが多く、従来は、ともに学ぶ「学友」は、学習センターで出会うしかない状態であった。

だが、近年、インターネットの利用者が増大し、また、インターネットに接続して利用できる機器が、従来のパソコンのみならず、タブレットや、スマートフォンなどにも広がった。これらの機器は、簡単に取り扱うことができ、また、導入費用も下がっている。そのため、多くの人々が、インターネットを利用した交流によって、意見交換をしたり、精神的に癒されたりすることが可能になった。特に、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用した交流が増加しつつある。

放送大学は、無料オンライン講座を提供する「日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)」に参加している。そこで、授業映像を提供するために、世界最大のSNSとして知られるフェイスブックに「放送大学JMOOCページ」を設けている。

また、放送大学のコース・学習センターの一部が、ツ

イッターやフェイスブックにページを開設し、情報公開を行っている。さらに、岡部前学長及び一部の教員がツイッターを利用して放送大学に興味を持つ一般の人や、在学生相互の交流に加わっている。



情報コース・情報学プログラムのフェイスブック

岡部前学長のツイッター

情報コース「映像コンテンツの制作技術(16)」のツイッター

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

放送大学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、特に放送大学の発展に寄与する教育・研究プロジェクトや学術上あるいは大学運営に貢献する研究に対して特別研究費の制度を設け、プロジェクト支援として、また、教員個人の研究助成として資金面での支援をしている。さらに、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金も積極的に得て研究を進めている。2017年度に特別研究として、また、放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

2017年度学長裁量経費(研究助成)決定者一覧

所属	職名	氏名	研究課題名
情報	准教授	鈴木 一史	質感情報に基づく3次元物体モデルの分割に関する研究
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	東アジアにおけるストレス対処力SOCの実態と社会的形成要因の国際比較
人間と文化	教授	稲村 哲也	熱帯高所環境からの新たな牧畜論構築にむけて—文化人類学、遺伝学、考古学の共同
社会と産業	准教授	齋藤 正章	純粋持株会社における子会社管理の課題
自然と環境	教授	石崎 克也	バンタグラフ方程式の有理形函数論からのアプローチ
情報	准教授	高橋 秀明	情報生態学の構築：人間のプロセス制御行動を事例に

放送大学教育振興会助成による研究：多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発

所属	職名	氏名	研究課題名
情報	准教授	鈴木 一史	放送大学オンライン科目の携帯端末視聴システムに関する研究
社会と産業	教授	高橋 和夫	サイバー空間におけるセキュリティの研究
生活と福祉	教授	大曾根 寛	放送大学における子育て支援科目の充実と体系化に関する研究
人間と文化	准教授	大橋 理枝	放送大学のオンライン科目で音声添削を行うためのシステム改修
社会と産業	教授	坂井 素思	放送大学エキスパート制度活用による企業・地域連携の開発研究
情報	教授	芝崎 順司	学生の映像視聴反応を利用した双方向型遠隔学習支援モバイルシステムの開発と運用
心理と教育	教授	大山 泰宏	心理療法家養成におけるオンライン・スーパービジョンの研究
情報	教授	近藤 智嗣	ネット時代における双方向TV放送授業の実現と評価
情報	准教授	高橋 秀明	遠隔「研究(指導)」実践過程の記述：放送大学大学院「研究指導」科目を対象に
生活と福祉	教授	井出 訓	タブレット端末とYoutubeを活用した簡易的授業補完映像副教材の作成とその効果測定

放送大学教育振興会助成による研究：教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業

所属	職名	氏名	研究課題名
社会と産業	教授	河合 明宣	ブータン王立大学との国際交流協定に基づくオンライン科目共同制作を通じた放送大学教材のブータンへの普及・協力事業

放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	岡田 光正	放送大学の効果的な学生増加方策の検証及び学習環境のユニバーサルデザイン化の研究について

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
情報	教授	山田 恒夫	基盤A	生涯学習基盤としての大規模オンラインコース(MOC)の構築と運用に関する研究
自然と環境	教授	谷口 義明	基盤A	スーパーウインドによる銀河と銀河間物質の共進化
	副学長	宮本 みち子	基盤B	若者期の生活保障の構築に向けた国際比較研究～社会的に排除される若者層を中心に～
心理と教育	教授	岩崎 久美子	基盤B	教育格差是正のための社会的セーフティネットシステム形成に関する総合的研究
	教授	小川 正人	基盤B	近年の教育行政関係法制の改正と地方教育行政の変化に関する調査研究
社会と産業	教授	河合 明宣	基盤B	インド経済圏内の食品流通システムの展開方向と日本農産物の輸出可能性の究明
	教授	柳原 正治	基盤B	外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究
人間と文化	教授	内堀 基光	基盤B	「老いの文化」の形成と機能に関する比較に基づく人類学的研究
情報	教授	加藤 浩	基盤B	多人数講義におけるアクティブ・ラーニングを支援するグループウェアの開発
	教授	近藤 智嗣	基盤B	コンピュータビジョンと行動分析による複合現実感展示システムのインテリジェント化
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤B	キラル物質における対称性の破れと電磁応答
生活と福祉	客員教授	井上 洋士	基盤B	HIV陽性者の肯定的対処とく生>再構築を促す統合的Web支援ツール開発と評価
	教授	奈良 由美子	基盤C	日本社会にあった生活リスクリテラシーの視座確立と実践モデルの開発
	准教授	川原 靖弘	基盤C	脳機能解析手法による騒音評価指標の構築
心理と教育	教授	苑 復傑	基盤C	経済転換期における中国高等教育政策の背景と浸透過程
	教授	進藤 聡彦	基盤C	知識の構造化を促す教授戦略と教材開発に関する教育心理学研究
人間と文化	准教授	小林 真理子	基盤C	がん患者の子どもと家族への支援リソースの開発に関する研究
	准教授	大橋 理枝	基盤C	分野横断的な科学リテラシーの創造とそれに向けたプラットフォーム構築に関する研究
情報	教授	青木 久美子	基盤C	コンピテンシーに基づく教育(CBE)の実施に関する調査研究
	教授	大西 仁	基盤C	聴覚機構に基づく感覚的協和間モデル
	教授	秋光 淳生	基盤C	社会人の自発的協同学習を誘発するオンライン学習環境の開発
	准教授	浅井 紀久夫	基盤C	技能伝承のための分散協調訓練での深層学習による触力感覚再現の高度化
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	都市の大規模樹林地は核となる生息場所となり得るのか
	教授	二河 成男	基盤C	昆虫ゲノムから探る遺伝子水平転移により獲得した遺伝情報の機能と特徴
	准教授	大森 聡一	基盤C	単鉱物地質温度圧力計体系の確立
	准教授	安池 智一	基盤C	電子の集団運動を利用した高感度微視的化学環境プローブ手法の理論的開拓
秋田SC	特任教授	西田 眞	基盤C	穏やかさと喜びの心情に基づくQOL認識マルチイメージングシステムの開発
多摩SC	特任教授	坂内 徳明	基盤C	近代ロシア文学現出の舞台ーロシア文学史における貴族屋敷(ウサーヂバ)の意義
奈良SC	特任教授	三野 博司	基盤C	アルペール・カミュ研究ー「暴力」に抗する文学と思想
生活と福祉	客員教授	道幸 哲也	基盤C	個別労働条件の集団的性格・職場のルール決定プロセスの研究・集団法の見直しを視野に
	教授	戸ヶ里 泰典	挑戦萌芽	慢性疾患患者を対象としたストレス対処力向上プログラムの構築
	教授	辰己 丈夫	挑戦萌芽	情報倫理・情報セキュリティと自閉症スペクトラムとの関連分析
	教授	加藤 浩	挑戦研究(萌芽)	主体的問題解決能力育成のための漸進的目標形成モデルを用いた学習支援システムの構築
情報	教授	仁科 エミ	挑戦研究(萌芽)	基幹脳を活性化する超高周波の受容部位の探求
	准教授	辻 靖彦	若手B	個人と組織による授業改善を支援する分散型ラーニング・デザイン作成支援環境の構築
自然と環境	プロ江外研究員	梅畑 豪紀	若手B	可視面分光とアルマ望遠鏡で探る銀河と銀河間物質の相互作用
	特別研究員	西嶋 美智子	特別研究員	太平洋戦争の時代における自衛権概念の考察
	特別研究員	金 広殖	特別研究員	近代日本における日韓比較民話説話研究の形成過程に関する実証的研究

特集

オンライン授業

教育

研究

国際交流

社会貢献

学習センター

その他外部資金助成による研究

所属	職名	氏名	研究課題名
社会と産業	教授	原 武史	サントリー文化財団研究助成「近代天皇制研究会」
鳥取学習センター	所長	小林 一	国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム (SATREPS) 「持続的食料生産のための乾燥地に適した露地栽培結合型アクアポニックスの開発」(共同研究者)

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は放送大学の専任教員が日ごろの研究成果を発表する場である。2017年度版を2018年3月に発行した。

2017年度放送大学研究年報(第35号)著者及び論題一覧

著者	論題
佐藤 仁美	色と形によるグアテマラのマヤ先住民の世界 ～色彩コラージュを用いて～
河合 明宣、シンゲイ・ナムギャル 永田 明	ブータンにおける高等教育を受けた若者の営農を通じた挑戦： 若者による営農プログラム事例
原田 順子	1990年代後半における日本的雇用システムと女性 ～女性雇用者はどのようにシステムから除外されていたか～
李 鳴	保険法における告知義務および 告知義務違反による解除の法的構成
稲村 哲也、鈴木 康弘 石井 祥子、スヘー・バートルガ 奈良 由美子、河合 明宣 山田 恒夫、高橋 博文	モンゴルにおけるレジリエンスの研究と実践 —JICA草の根技術協力事業(パートナー型)の開始
坂内 徳明	エカテリンゴフ園遊頌詩論考 —D.フヴォストフの詩(1824)に対するコメントを通して
上野 達彦	帝政ロシア刑法からポスト・ソビエト刑法の理論に向けて
島内 裕子	『方丈記諺解』の注釈態度



放送大学研究年報 第35号

研究成果の発表・普及【書籍】

放送大学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。また辞書・辞典の編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、放送大学や公共の図書館な

どに所蔵されているので、閲覧可能である。放送授業や印刷教材の内容とは異なり、より専門的かつ先進的な内容を含んでいるので、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるので積極的に手にとってほしい。

所属・氏名	書籍名・辞典名	出版社
生活と福祉 関根 紀子	平成28年度 体力・運動能力調査報告書(内藤久士, 鈴木宏哉, 関根紀子他)	スポーツ庁
心理と教育 岩崎 久美子	岩崎久美子編著『国際バカロレアの挑戦—グローバル時代の世界標準プログラム』	明石書店 2018年3月
	岩崎久美子「フランスにおける近年の生涯学習重点政策」(pp.332-351.) フランス教育学会編『現代フランスの教育改革』	明石書店 2018年1月
	日本教育社会学会編『教育社会学会事典』 ([概説: 海外の教育社会学]pp.134-137, [国際バカロレア]pp.768-769.)	丸善出版 2018年1月
	岩崎久美子・大迫弘和編著『国際バカロレアの現在』	ジヤース教育新社 2017年6月
小川 正人	『解説 教育六法』	三省堂 2017年2月

所属・氏名	書籍名・辞典名	出版社	
社会と産業	『〈女帝〉の日本史』	NHK出版新書	
	『松本清張の「遺言」』『昭和史発掘』『神々の乱心』を読み解く』	文春文庫	
	『NHKテキスト100分de名著 松本清張スペシャル』	NHK出版	
	『滝山コミュニケーション1974 民主的集団教育共同体はどのように個人を圧迫する権力となったか』	ソウル・イマジニ ※原文はハンゲル	
	岩波書店編集部編『教育勅語と日本社会 いま、歴史から考える』	岩波書店	
	『広辞苑 第七版』	岩波書店	
柳原 正治	『変転する国際社会と国際法の機能—内田先生追悼』	信山社、2018	
	“‘Shioki (Control),’ ‘Fuyo (Dependency),’ and Sovereignty: The Status of the Ryukyu Kingdom in Early-Modern and Modern Times,” A. Roberts et al. (eds.)	Comparative International Law (New York: Oxford University Press, 2018), pp.141-157	
人間と文化	近藤 成一	小島毅編『中世日本の王権と禪・宋学(東アジア海域叢書15)』のうち、『天皇の譲位と院政—鎌倉時代を中心に—』(pp.167-192)を執筆	汲古書院 2018年3月
	島内 裕子	島内裕子(単著)校訂・訳『枕草子・上』、ちくま学芸文庫	筑摩書房 2017年4月
		島内裕子(単著)校訂・訳『枕草子・下』、ちくま学芸文庫	筑摩書房 2017年4月
島内裕子(共著)『私の漱石—『漱石全集』月報精選』	岩波書店 2017年10月		
情報	鈴木 一史	はじめてのWebページ作成 HTML・CSS・JavaScriptの基本 松下 孝太郎(著), 山本 光(著), 沼 晃介(著), 樋口 大輔(著), 鈴木 一史(著), 市川 博(著)	講談社 2017年10月
自然と環境	谷口 義明	『銀河宇宙観測の最前線』谷口義明	海鳴社 2017年4月
宮城学習センター	大淵 憲一	大淵憲一「若者の暴力」 越智啓太・桐生正幸(編)『テキスト司法・犯罪心理学』53-67頁	北大路書房 2017年
秋田学習センター	西田 眞	石沢 千佳子, 景山 陽一, 西田 眞:「車載カメラ画像を用いた夜間の最高速度標識の認識技術」, 車載センシング技術の開発とADAS、自動運転システムへの応用(分担執筆,第5章第4節)	株式会社 技術情報協会発行、pp.196-205 2017年 5月
石川学習センター	鹿島 正裕	M.モザッファリ著、鹿島正裕訳『イスラム主義 新たな全体主義』	風行社 2018年3月

研究成果の発表・普及【論文】

大学教員の教育の原動力になるものは専門の研究である。ここから湧き出る問題を追い求める力が、忍耐力を高め、新たな発見を生み出す。放送大学の専任教

員・学習センター所長は、各分野・領域における専門家である。研究論文は審査を受け学術雑誌から世に放たれる。2017年度に発表された、学術論文を紹介する。

所属・氏名	論文名	発表
生活と福祉	Mitochondrial accumulation of doxorubicin in cardiac and diaphragm muscle following exercise preconditioning. Morton AB, Mor Huertas A, Hinkley JM, Ichinoseki-Sekine N, Christou DD, Smuder AJ.	Mitochondrion. 2018 Feb 21. pii: S1567-7249(17)30281-7. doi: 10.1016/j.mito.2018.02.005. [Epub ahead of print]
	Effects of voluntary running exercise on bone histology in type 2 diabetic rats. Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Yoshihara T, Naito H.	PLoS One. 2018 Feb 15;13(2):e0193068. doi: 10.1371/journal.pone.0193068. eCollection 2018.
	Role of selected polymorphisms in determining muscle fiber composition in Japanese men and women. Kumagai H, Tobina T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Zempo H, Shiose K, Yoshimura E, Kumahara H, Ayabe M, Higaki Y, Yamada R, Kobayashi H, Kiyonaga A, Naito H, Tanaka H, Fuku N.	J Appl Physiol (1985). 2018 Jan 18. doi: 10.1152/jappphysiol.00953.2017. [Epub ahead of print]
	Zinc transporter ZIP13 suppresses beige adipocyte biogenesis and energy expenditure by regulating C/EBP-β expression. Fukunaka A, Fukada T, Bhin J, Suzuki L, Tsuzuki T, Takamine Y, Bin BH, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Miyatsuka T, Takamiya S, Sasaki T, Inagaki T, Kitamura T, Kajimura S, Watada H, Fujitani Y.	PLoS Genet. 2017 Aug 30;13(8):e1006950. doi: 10.1371/journal.pgen.1006950. eCollection 2017 Aug
吉村 悦郎	健康高齢者のForward Lunge解析パラメータと内的転倒要因との関連。小池孝康, 岩島隆, 池田雅志, 関根紀子。	岐阜保健短期大学紀要, 7:43-52, 2017
岩崎 久美子	Structural and functional analyses of a TIMP and MMP in the ligament of Pinctada fucata.	Journal of Structural Biology. 199(3) 216-224 査読あり2017年9月
心理と教育	『「社会人の学び直し」における放送大学の役割』	日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報』第38号, pp.3-20. (特集依頼原稿)
	『エビデンスに基づく教育: 研究の政策活用を考える』	科学技術振興機構編『情報管理』2017年4月号 vol.60, no.1, pp.20-27. (特集依頼原稿)
	『教育と福祉の協働を阻む要因と改善に向けての基本的課題』	単著、日本社会福祉学会編『社会福祉学』第58巻第4号 2018年3月 1~4頁
進藤 聡彦	『市町村合併による県費負担教職員人事行政の変容』	共著、『国立教育政策研究所紀要』第146集 2018年3月 125~138頁
	Sato, S., Nishibayashi, K., Shindo, T. & Kudo, Y. The effect of knowledge structuring on the application of rules.	Proceedings of European Psychology Learning and Teaching 2017 Conference.
社会と産業	オープンサイエンスの国際連携に関する法的課題	産学連携ジャーナル, Vol.13, No.4, pp.21-23, 2017年4月15日
	児玉 晴男 (中国語訳: 战东升) 论作为信托财产的环境资源权——环境财产的权利构造分析 科学研究のデュアルユース問題の倫理的・法的な対応	私法研究(中南财经政法大学民商法学科・法律出版社)、22巻、pp.264-277, 2018年3月1日 企業法研究, Vol.6, No.1, pp.18-37, 2018年3月31日

特集
オンライン授業
教育
研究

国際交流

社会貢献

学習センター

	所属・氏名	論文名	発表
社会と産業	原田 順子 柳原 正治	原田順子・北田桃子(2017)「海事人材と男女共同参画:他産業の事例比較による一考察」 「よみがえる安達峰一郎」	『港湾経済研究』56号, pp.125-135 [UP]535号(2017)24-30頁
	青木 久美子	「新しい」大学教育—コンピテンシーに基づく教育(CBE)の実践	日本労働研究雑誌 59(10) 37-45
情報	辻 靖彦	田中功一, 小倉隆一郎, 鈴木泰山, 辻 靖彦, ピアノ学習プロセスの表出化と変容—SCATによる初学者の振り返り記述の質的分析— Katsusuke Shigeta, Mitsuyo Koizumi, Hiroyuki Sakai, Yasuhiko Tsuji, Rieko Inaba, Naoshi Hiraoka, A survey of the awareness, offering, and adoption of OERs and MOOCs in Japan Yasuhiko Tsuji, Rieko Inaba, Mieko Takahira and Mana Taguchi, A secular trend analysis of the effects of using ICT in university education	電子キーボード音楽研究 12 4-16 2018-03 Open Praxis 9(2) 195-206, 2017-07 ICCE2017(the 25th International Conference on Computers in Education), pp.1039-1041, 2017-12
	仁科 エミ	Electroencephalogram characteristics during possession trances in healthy individuals, KawaiN, Honda M, Nishina E, Yagi R, Oohashi T	NeuroReport, 28(15): 949-955, 2017
	葉田 善章	Supporting Face-to-Face Class with Mobile Device, Y., Hada, 査読有, Proc. of Extended Summary Proceedings	ICCE2017 (25th International Conference on Computers in Education), pp.31-34, Christchurch, New Zealand, 2017.12.8
	柳沼 良知	Yoshitomo Yaginuma, Visualization Method of Web Pages based on Syllabus	6th International Congress on Advanced Applied Informatics (AAI 2017), PaperID:6178b006, 2017.7
		柳沼良知, シラバスに基づくWebページの表示手法	情報処理学会情報教育シンポジウム(SSS2017), pp.37-42, 2017.8
		古川雅子, 中村泰之, 山川修, 柳沼良知, 多川孝央, 魚崎典子, 山田恒夫, ラーニング・アナリティクスの動向	情報処理学会情報教育シンポジウム(SSS2017), pp.31-36, 2017.8
		Yoshitomo Yaginuma, Syllabus Visualization Tool Based on Standard Curriculum	IEEE 6th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2017), pp.276-277, 2017.10
加藤 和弘	Masako Furukawa, Kazutsuna Yamaji, Yoshitomo Yaginuma, Tsuneo Yamada, Development of Learning Analytics Platform for OJ Online Courses	IEEE 6th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2017), pp.557-558, 2017.10	
	Kishi, S., Sakura, N., Yoshikawa, T., Hiraiwa, M. K., & Kato, K. (2017). Interaction between insects and insect-pollinated plants on Miyake Island after a recent volcanic eruption: A comparison between vegetation types Cui, J., Hirota, M., Kamijo, T., Yoshitake, S., & Kato, K. (2018) Soil Net Nitrogen Mineralization at Different Ecosystem Development Stages after the Year 2000 Eruption on Miyakejima Island.	Journal of Asia-Pacific Entomology, 20(3), 964-970. Journal of Ecosystem and Ecography 8: 250. doi: 10.4172/2157-7625.250	
自然と環境	谷口 義明	The VIMOS Ultra Deep Survey first data release: Spectra and spectroscopic redshifts of 698 objects up to zspec 6 in CANDELS Tasca, L., et al.	2017, Astronomy and Astrophysics, 600, 110
		A search for Ly α emitters around a concentrated region of strong Ly α absorbers at z = 2.3 Ogura, K., et al.	2017, Publ. Astronomical Soc. Japan, 69, 51
		Chemical enrichment and accretion of nitrogen-loud quasars Matsuoka, K., et al.	2017, Astronomy and Astrophysics, 608, 90
		Deep Submillimeter and Radio Observations in the SSA22 Field. I. Powering Sources and the Ly α Escape Fraction of Ly α Blobs Ao, Y., et al.	2017, Astrophys. J., 850, 178
		Morphological evidence for a past minor merger in the Seyfert galaxy NGC 1068 Tanaka, I., Yagi, M., & Taniguchi, Y.	2017, Publ. Astronomical Soc. Japan, 69, 90
		ALMA 26 arcmin ² Survey of GOODS-S at One-millimeter (ASAGAO): X-Ray AGN Properties of Millimeter-selected Galaxies Ueda, Y., et al.	2018, Astrophys. J., 853, 24
		Great Optically Luminous Dropout Research Using Subaru HSC (GOLDRUSH). I. UV luminosity functions at z ~ 4-7 derived with the half-million dropouts on the 100 deg ² sky Ono, Y., et al.	2018, Publ. Astronomical Soc. Japan, 70, 100
		Systematic Identification of LAEs for Visible Exploration and Reionization Research Using Subaru HSC (SILVERRUSH). I. Program strategy and clustering properties of ~2000 Ly α emitters at z = 6-7 over the 0.3-0.5 Gpc ² survey area Uchi, M., et al.	2018, Publ. Astronomical Soc. Japan, 70, 130
		SILVERRUSH. II. First catalogs and properties of ~2000 Ly α emitters and blobs at z ~ 6-7 identified over the 14-21 deg ² sky Shibuya, T., et al.	2018, Publ. Astronomical Soc. Japan, 70, 14S
		SILVERRUSH. III. Deep optical and near-infrared spectroscopy for Ly α and UV-nebular lines of bright Ly α emitters at z = 6-7 Shibuya, T., et al.	2018, Publ. Astronomical Soc. Japan, 70, 15S
SILVERRUSH. IV. Ly α luminosity functions at z = 5.7 and 6.6 studied with ~1300 Ly α emitters on the 14-21 deg ² sky Konno, A., et al.	2018, Publ. Astronomical Soc. Japan, 70, 16K		
秋田学習センター	西田 眞	ASAGAO. Average Morphology of High- z Dusty Star-Forming Galaxies is an Exponential-Disk (S _n simeq 1S) Harboring an AGN Fujimoto, S., et al.	2018, Astrophys. J., in press
		Y. Kageyama, H. Ishikawa, C. Ishizawa, T. Takahashi, M. Nishida, H. Shinden, T. Takisawa, T. Koyama and M. Kobushi : Method to Estimate Colors of Amber Debris	IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering, Vol.13, No.8, pp.1212-1213(2018)
		C. Ishizawa, S. Kitano, Y. Kageyama and M. Nishida : Speed and Brightness Verification while Switching Two-Brightness without Flicker on a Liquid Crystal Display	IEEJ Transactions on Image Electronics and Visual Computing, Vol.6, No.1, pp.39-46 (2018)
		T. Takahashi, M. Nishida, Y. Kageyama and H. Endo : Developing a Method to Determine Commodity Location: Shortening Travel Distance of Picking in an Unautomated Warehouse	Journal of the Institute of Industrial Applications Engineers, Vol.5, No.4, pp.164-171, (Oct. 2017)
新潟学習センター	新村 末雄	石井 雅樹, 山屋 孝史, 景山 陽一, 高橋 毅, 西田 眞 : 「適応学習機能を有する表情特徴空間の生成と時間軸に対する頑強性の評価」 H. Shirai, Y. Kageyama, A. Ohuchi and M. Nishida : Estimating the Amount of Disaster Waste Using RapidEye Data	情報処理学会論文誌, Vol.58, No.7, pp.1300-1310, (July 2017) IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering, Vol.12, No.S1, pp.S191-S192, (June 2017)
		Location and expression of Juno in mice oocytes during maturation. Suzuki B, Sugano Y, Ito J, Saito H, Niimura S, Yamashiro H.	JBRA Assist Reprod., 21:321-326. 2017.
兵庫学習センター	大野 隆	Effect of supplemented sericin on the development, cell number, cryosurvival and number of lipid droplets in cultured bovine embryos. Hosoe M, Inaba Y, Hashiyada Y, Imai K, Kajitani K, Hasegawa Y, Irie M, Teramoto H, Takahashi T, Niimura S.	Anim Sci J., 88:241-247. 2017.
		光照射されたマウス卵母細胞の成熟と初期胚の発生に及ぼすメラトニンの効果. 伊藤雄海・新村末雄	北信越畜産学会報, 116: 9-13. 2018.
奈良学習センター	三野 博司	培養したマウス卵母細胞のcAMP含量とAdenylate cyclase のmRNAの発現量. 川上心也・南斉千絢・新村末雄	北信越畜産学会報, 116: 23-30. 2018.
		Y Kimura, Y., Kawakami, T., Arikawa, T., Yong Li, Yu, L.-J., Ohno, T., Madigan, M.T., and Wang-Otomo, Z.-Y., "C-Terminal Cleavage of the LH1 α -Polypeptide in the Sr2+-Cultured Thermochromatium tepidum"	Photosynth. Res. 135, 23-31, 2018.
和歌山学習センター	平田 健正	Nagashima, V. P. K., Sasaki, M., Hashimoto, K., Takaichi, S., Nagashima, S., Yu, L.-J, Abe, Y., Goto, K., Kawakami, T., Takenouchi, M., Shibuya, S., Yamaguchi, A., Ohno, T., Shen, J.-R., Inoue, K., Madigan, M.T., Kimura, Y.* and Wang-Otomo, Z.-Y., "Probing Structure-Function Relationships in Early Events in Photosynthesis Using a Chimeric Photocomplex"	Proc. Nat. Aca. Sci., 114, 10906-10911, 2017.
		Kimura, Y., Lyu, S., Okoshi, A., Okazaki, K., Nakamura, N., Ohashi, A., Ohno, T., Kobayashi, M., Imanishi, M., Takaichi, S., Madigan, M. T., Wang-Otomo, Z.-Y., "Effects of Calcium Ions on the Thermostability and Spectroscopic Properties of the LH1-RC complex from a New Thermophilic Purple Bacterium Allochromatium tepidum"	J. Phys. Chem. B 121, 5025-5032, 2017.
和歌山学習センター	平田 健正	「シーシュポスあるいは武士道の精神——カミュと丸鬼周造」	Etudes camusiennes カミュ研究, No12, 青山社, p. 1-12, 2017年6月
		田内裕人・中村誠・江種伸之・平田健正(2017): 降雨パターンと土壌雨量指数に着目した平成23年台風12号の土砂災害の誘因解析 福永翔太, 田内裕人, 江種伸之, 平田健正, 川本克也(2017): 多種類の揮発性有機化合物に汚染された帯水層における原位置バイオレメディエーションの浄化効果 Hino, R., N. Egusa, Y. Wada, M. Ishizuka and T. Hirata(2017): Restraint Effects of 2-MIB Concentration Increases Due to Total Phosphorus Management in the Upper Kinokawa Watershed	土木学会論文集B1(水工学), Vol.73, No.4, pp.1_243-1_248. 土木学会論文集B1(水工学), Vol.73, No.4, pp.1_61-1_66. International Journal of GEOMATE, Vol.13, Issue 37, pp.141-148.DOI: https://doi.org/10.21660/2017.37.2735.

国際交流の取り組み

2017年度は、本学が加盟する国際組織の会議での発表や海外の協力交流協定大学への調査訪問等により連携強化を図った。また、海外からの来訪が多数あり、積極的な国際交流に取り組んだ1年となった。

第31回AAOU2017年次大会への参加

2017年9月27日から29日にかけてインドネシア共和国・ジョグジャカルタ市で、アジア公開大学連合(AAOU=The Asian Association of Open Universities)第31回年次大会がインドネシア・テルブカ大学主催により開催された。大会のテーマは“Open University for Inclusive and Equitable Quality Education”(誰もが参加でき、公平で質の高い教育のための公開大学)とし、本学からはAAOU理事である來生学長、岡部顧問、池田副学長、田城孝雄教授、浅井紀久夫准教授そして事務局1名、またAsian MOOCs 運営委員会のメンバーとして山田恒夫教授が参加した。田城教授は“Online Course Understanding Cancer in Japan”という演題で、オンライン授業「がんを知る」の構成を紹介、浅井准教授は“How Various Students Can Access Face-to-face Lectures Remotely and Synchronously”という演題で、学生が自宅から面接授業を受講する試みについて発表した。

山田教授は、本会議の前に行われたワークショップの一つ“OER (Open Educational Resources) Repository”を主宰した。年次大会最終日の閉会式では、岡部顧問が2017年のAAOU Meritorious Service Award (AAOU功績賞)を受賞した。



全体会ステージを背に

第7回日中韓セミナーの開催

2009年より本学、韓国放送通信大学校(KNOU)および中国国家開放大学(OUC)の3校間で開催してきた日中韓セミナーの第7回目が、2017年9月7日～8日に本学附属図書館において開催された。

“Supporting Various Learners in Open Universities”(公開大学における様々な学習者への支援)をメインテーマに、計6名による発表があり、本学からは有川理事長、來生学長をはじめ約30名が参加した。セッション1では三輪教授が「オンラインコース受講に必要なICTリテラシーを高年齢学生に身につけさせる」というタイトルで、また第2日目のセッション2では児玉教授が「オンライン授業『メディアと知的財産』の講義ノートアプリの開発」というタイトルでそれぞれ発表を行った。

その後、発表された技術や経験について様々な質疑応答が繰り広げられた。



三大学の参加者が集合

ICDE世界大会への参加

2017年10月16日～19日、カナダ・オンタリオ州・トロント市にて、国際遠隔教育会議(ICDE=International Council for Open and Distance Education)第27回世界大会2017がICDEとコンタクト・ノース(オンタリオ州政府設立の遠隔教育推進組織)の共催により開催された。「オンライン学習に関する世界会議:デジタル時代の教育～教育と学習を再考する」をテーマとし、池田副学長をはじめ、岩永附属図書館長、山田恒夫教授ほか計4名が参加した。

放送大学からは岩永附属図書館長が「放送大学における組織ビジネスと経営モデルの再デザイン」のタイトルで、山田教授が「高等教育/生涯学習機関におけるMOOC/SPOCのための学習解析環境の導入」のタイトルで発表を行った。



全体会場の様子

カナダ・アサバスカ大学との協力交流協定の再締結

2017年10月12日～13日にかけて、カナダ・アルバータ州に位置するアサバスカ大学を、本学の岩永附属図書館長、山田教授、神総務課長補佐が現状調査及び両大学間の協力交流協定再締結のために訪問した。

アサバスカ大学は1970年に通学制大学として開学後、1972年に遠隔教育へ転身。州政府の財政支援を受け、現在約4万人の学生に対して850科目以上のオンライン授業を展開する公開大学で、本学とは過去に交流協定を締結していた。

訪問初日には、エドモントン市中心部のサテライトキャンパスにて歓迎を受けた後、本学の概要説明やオンライン授業の紹介を行い、またアサバスカ大学の障がい学生

サポートやオンライン授業の開発等について、各担当者から説明を受け、活発な意見交換が行われた。2日目にはアサバスカ大学本部を訪問し、コールセ

ンターや図書館の施設見学をしながら説明を受けた。その後エドモントンに戻り、アサバスカ大学Neil Fassina学長との協力交流協定の調印及び記念品の交換が行われた。調査の詳細な内容は報告書にまとめられ、本学の研究及び運営等に役立てられる。



Neil Fassina学長との調印の様子

ブータン王立大学との協力交流協定の締結

2017年8月18日、本学とブータン王立大学との間で交流協定が締結された。本学からは河合教授がブータン王立大学に來生学長の代理として訪れ、ブータン王立大学副学長Nidup Dorji氏との調印式に参加した。

かねてより、本学とブータン王立大学傘下であるシェ

ルブツェ・カレッジとは部局間協定という形で交流を続けてきたが、これを機に交流の幅を広げ、さらに活発な交流を目指す。



調印式の様子

海外からの来訪

2017年度も、下記のとおり外国からの訪問者が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月日	来訪者	国/地域	月日	来訪者	国/地域
4月24日～26日	ブータン王立大学シェルブツェ・カレッジ(2名)	ブータン	9月26日	中国教育部国家教育发展研究中心(7名)	中国
6月1日、3日	湖南省広播電視大学(5名)	中国	12月19日	国家技術庁職業訓練センターJICAプログラム(2名)	ニカラグア
6月2日	国立空中大学(3名)	台湾	1月31日～2月2日	フランス国立科学研究センター(1名)	フランス
6月9日	The Mobile University(1名)	ドイツ	2月18日～25日	アサバスカ大学(1名)	カナダ
9月7日～8日	国家開放大学、韓国放送通信大学校(9名)	中国、韓国	2月20日～22日	AAOU Asian MOOCs 運営委員会(4名)	香港、インド、フィリピン

社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約84万人を内外に代表する機関である。210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。下表は本学の会員加入状況を示すものである。

日本学術会議での会員(連携会員)加入状況

氏名	職名	専門分野
稲村 哲也	教授	地域研究、環境学
小川 正人	教授	心理学・教育学、社会学
岩永 雅也	附属図書館長	心理学・教育学、社会学
宮本 みち子	副学長	社会学

学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会の

みならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

氏名	職名	役職
関根 紀子	准教授	日本体力医学会 評議員、スポーツ庁 体力・運動能力調査 協力者
吉村 悦郎	教授	文部科学省高等教育局「教育関係共同利用拠点制度」委員会委員、立教大学 立教大学ライフサイエンスに係る研究・実験の倫理及び安全委員会委員、日本農学会 日本農学進歩賞受賞者選考委員会委員、日本分析化学会 分析化学実践シリーズ編集委員会委員
岩崎 久美子	教授	フランス教育学会会長、日本生涯教育学会評議員、日本教育社会学会編集委員、千葉県千葉市新基本計画審議会(政策評価部)委員、東京都福祉市教育委員会事務点検 評価委員、千葉県千葉市教育委員会事務点検 評価委員、千葉大学先端科学センター運営協議会委員、東京都武蔵野市社会教育委員の会議副議長、東京都杉並区子ども読書活動推進懇談会委員座長、東京都港区生涯学習審議会副会長、独立行政法人国立青少年教育振興機構 評価委員、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団 理事、公益財団法人音楽文化創造 理事
小川 正人	教授	文部科学省・中央教育審議会 副会長、同・初等中等教育分科会長、同・学校における働き方改革特別部会長、同・地方文化財行政に関する特別部会長、同・教育振興基本計画特別部副会長、文部科学省「高校生等への修学支援に関する協力者会議」主査、日本学術振興会専門委員、審査員、等、国立教育政策研究所評議員(評議員会会長)、教科書研究センター理事、日白大学理事・評議員、兵庫教育大学教育政策トップリーダー養成カリキュラム研究開発評価委員会委員、東京都文京区教育委員会「小中連携教育検討委員会」会長、東京都中央区教育委員会「点検・評価に関する有識者」
進藤 聡彦	教授	日本教育心理学会 代議員、日本教育心理学会 常任編集委員、日本教授学習心理学会理事、日本教授学習心理学会 編集委員長、山梨県社会教育委員、山梨県教育委員会指導が不適切な教員に関する審査委員会 委員長、甲府市子ども子育て会議 議長、甲斐市いじめ防止連携会議 委員長
児玉 晴男	教授	一般社団法人企業法学会(日本学術会議協力学術研究団体) 理事、一般社団法人日本機械学会(日本学術会議協力学術研究団体) 法工学専門会議 運営委員会 委員、足立区個人番号カード交付等関連業務委託評価委員会 委員
原 武史	教授	日中文化交流協会理事
原田 順子	教授	【神奈川県横浜市】横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会 委員、人材育成学会 選挙管理委員会 委員
柳原 正治	教授	国際法協会日本支部理事・研究企画主任、公益財団法人安達峰一郎記念財団顧問、東アジア国際法秩序研究協議会特別顧問、国連海洋法条約の下での仲裁人・調停人、日本学術会議連携委員
近藤 成一	教授	日本古文書学会 評議員、日本歴史学会 評議員
青木 久美子	教授	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、公益社団法人日本理容美容教育センター e-Learningのあり方検討会委員
加藤 浩	教授	日本教育工学会 副会長・編集長、理事、日本科学教育学会編集委員編集幹事、HCI(International Conference on Human-Computer Interaction) International Program Boards Member
広瀬 洋子	教授	文部科学省 障害のある学生の修学支援に関する検討会委員、一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会監事
辻 靖彦	准教授	教育システム情報学会関東支部 役員、大学ICT推進協議会 ICT活用調査部会 委員
葉田 善章	准教授	大学ICT推進協議会 認証連携部会 委員
加藤 和弘	教授	一般社団法人環境情報科学センター 理事、千代田区生物多様性推進会議 副座長、千代田区ちよだ生物多様性大賞選定委員会 副座長
谷口 義明	教授	日本天文学会・内地留学奨学金委員会、日本学術振興会・挑戦的研究審査部会、日本学術振興会・科学研究費・基盤研究(S)書面審査委員
大淵 憲一	宮城学習センター所長	宮城県安全安心まちづくり委員会 会長、独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会 専門委員、公益社団法人日本心理学会教育研究委員会 委員、日本犯罪心理学会 常任理事
西田 眞	秋田学習センター所長	秋田県地方独立行政法人評価委員会 委員長
西田 正吾	大阪学習センター所長	大阪府立大学監事(非常勤)、システム制御情報学会選挙管理委員会委員、システム制御情報学会SCI'18 組織委員会委員、奈良先端科学技術大学院大学支援財団支援事業第13期選考委員会委員、ヒューマンインタフェース学会評議員、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究専門委員会顧問、一般財団法人徳徳堂記念会評議員
大野 隆	兵庫学習センター所長	国立大学法人神戸大学特別顧問(非常勤)、学校法人順正学園 吉備国際大学外部評価委員(非常勤)
平田 健正	和歌山学習センター所長	環境省 中央環境審議会 臨時委員、環境省 国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会 副座長、東京都 豊洲市場における土壌汚染対策等に関する専門家会議 座長
小林 一	鳥取学習センター所長	鳥取労働局鳥取地方労働審議会委員(委員長)、鳥取労働局鳥取地域訓練協議会委員(委員長)、鳥取県農商工連携促進ファンド事業審査委員会委員(委員長)、公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構農地中間管理事業評価委員会委員(委員長)、鳥取市農業委員会委員、日本砂丘学会評議員
大平 文和	香川学習センター所長	文部科学省微細加工プラットフォーム事業委員、大学連携e-Learning教育支援センター-四国外部評価委員会 委員長、四国能力開発大学校部会委員、座長、かがや健康関連製品開発地域プロジェクトディレクター、一般財団法人「大西・アオイ記念財団」奨学金給付選考委員会 委員
菊川 律子	福岡学習センター所長	中央教育審議会委員(生涯学習分科会副会長)、国立大学法人分科会評価チーム員、福岡県社会教育委員

特集
オンライン授業
教育
研究
国際交流
社会貢献
学習センター

一般向け講演会

大学で培われた教育並びに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、その

専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

一般向け講演会			
講師	職名	テーマ	共催等
岩崎 久美子	教授	「子どもにとっての調べ学習：学ぶ心を育てるには」 「地域と学校 つなげるシンポジウム：地域学校協働活動のためのボランティア活動等の推進体制について」	杉並区教育委員会 国立教育政策研究所
小川 正人	教授	「教育と福祉の協働を阻む要因と改善に向けての課題教育行政の立場から」 「新学習指導要領と『チーム学校』構築の課題」 「学校における働き方改革と検討課題」 「日本社会の構造変化と教育政策の動向」 「中教審・学校における働き方改革と論点」 「教員の働き方改革」	日本社会福祉学会第65回春季研究大会 日本倶楽部 教育長等教育行政幹部職員セミナー（独立行政法人教職員支援機構、日本教職大学院協会主催、兵庫教育大学後援） 石川県白山市・野々市市小中学校長会合同研修会 中核市教育長会第2回研修会 教育の情報化推進フォーラム
進藤 聡彦	教授	身延町の教育を語る会講演「子どものやる気を引き出す関わり方」	身延町PTA連合会
原 武史	教授	「近代天皇制と退位問題」 「天皇退位問題を考える」	経済同友会同友クラブ 世田谷区主催世田谷市民大学公開講座
近藤 成一	教授	「絵画に見る蒙古襲来—蒙古襲来絵詞を読む—」 「無準師範と円爾—径山の復興支援をめぐる—」 „The Personal and Transpersonal Elements of the Medieval Japanese Government“, „Die Macht des Herrschers - personale und transpersonale Aspekte“, Internationale Tagung des SFB 1167	浙江大学 浙江大学 „Macht und Herrschaft -Vormoderne Konfigurationen in transkultureller Perspektive“ Universität Bonn Workshop des SFB 1167 „Macht und Herrschaft -Vormoderne Konfigurationen in transkultureller Perspektive“, Universität Bonn
島内 裕子	教授	「『枕草子』に学ぶ生き方の美学」 「『枕草子』から『徒然草』へ——その批評精神の系譜に学ぶ」 「笑う茉莉、怒る茉莉——森茉莉文学の魅力」	放送大学愛知学習センター開設25周年記念第4回公開講演会 放送大学奈良学習センター公開講演会 青山学院女子短期大学同窓会国文学科会講座
杉森 哲也	教授	「日本史のなかの江戸時代—江戸時代とはどうい時代か—」	おおた区民大学・放送大学提携講座
青木 久美子	教授	“Rethinking Individual Educational Trajectories: Potentials of Personalized MOOCs” “Potentials for Personalized Learning Paths in the Age of the 4th Industrial Revolution”	ロシアのウラル・フェデラル大学において開催された国際会議EdCrunch2017における招待講演 韓国中央大学において開催された国際シンポジウムにおける招待講演
谷口 義明	教授	「宇宙の謎—私たちはなぜここにいるのか?—」 「宇宙の謎—私たちはなぜここにいるのか?—」 「宇宙の謎」	高知県仁淀川町教育委員会「サイエンスツアー in Agawa」 放送大学多摩学習センター公開講演会 愛媛大学校友会講演会
大淵 憲一	宮城学習センター所長	「紛争問題を考える」	公益社団法人日本心理学会主催公開シンポジウム
大野 隆	兵庫学習センター所長	Lyu, S., Imanishi, M., Nojima, S., Kobayashi, M., Ohno, T., Wang-Otomo, Z.-Y., and Kimura, Y. “Spectroscopic and thermodynamic analyses of the LH1-RC complexes from a new thermophilic purple bacterium Allochromatium tepidum”	the 5th Awaji International Workshop on Electron Spin Science & Technology, Hyogo, Japan, June, 2017.
		木村行宏、秋本誠志、今西三千絵、岸利華子、橋本佳奈子、大野隆、永島賢治、大友征宇：“Thermochromatium tepidumおよびRhodobacter sphaeroides由来LH1-RCキメラ複合体の特性解析”	第25回光合成セミナー：反応中心と色素系の多様性、神戸、7月(2017)
		岸利華子、今西三千絵、小林正幸、大野隆、大友征宇、木村行宏：“同位体標識化された好熱性紅色細菌Thermochromatium tepidumにおけるキノール分子の振動分光学的検出”	第25回光合成セミナー：反応中心と色素系の多様性、神戸、7月(2017)
大平 文和	香川学習センター所長	能島伸吾、今西三千絵、呂淑文、小林愛実、大野隆、大友征宇、木村行宏：“新規好熱性紅色細菌Allochromatium tepidum由来LH1-RC複合体におけるCa依存型耐熱化機構のATR-FTIR分析”	第25回光合成セミナー：反応中心と色素系の多様性、神戸、7月(2017)
菊川 律子	福岡学習センター所長	「マイクロ・ナノテクノロジーを基盤とした地域連携の取り組み」	主催：徳島文理大学 後援：百十四銀行、さぬき市、かがわ産業支援財団、等
		「これからの社会に求められる人材育成」 「学校教育と男女共同参画社会」 「人づくり・地域づくりの視点から社会教育主事の役割を考える」	福岡県立学校初任者研修会 福岡県新任教頭研修会 北九州市社会教育主事研修会

その他社会貢献

氏名	専攻	社会貢献内容
関根 紀子	生活と福祉	順天堂大学スポーツ健康科学部客員准教授 フロリダ大学客員研究員
小川 正人	心理と教育	朝日新聞(2017年5月12日付朝刊)「耕論 インタビュー 残業代払わぬ法律 廃止を」掲載 読売新聞(2018年1月16日付朝刊)「インタビュー 編集委員が迫る 過労教員 働き方を変える」掲載
原 武史	社会と産業	朝日新聞書評委員 NHKEテレ「100分de名著 松本清張」に2018年3月4日出演
原田 順子		公益社団法人日本港湾協会より、平成29年度日本港湾協会賞企画賞を受賞しました。
辻 靖彦	情報	辻 靖彦(分担執筆)、BYODを活用した教育改善に関する調査研究 結果報告書、大学ICT推進協議会(AXIES)ICT利活用調査部会、2018年3月、 https://axies.jp/ja/ict/2016survey
加藤 和弘	自然と環境	東京大学工学部非常勤講師「生態学・生態工学」(12回中7回を分担) 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター 専門調査員
西田 眞	秋田学習センター	秋田テレビで放送している「土曜ライブ!あきた」にコメンテーターとして出演
鹿島 正裕	石川学習センター	大学コンソーシアム石川主催「学部石川の才知」連続講演会の一環として「イスラム国とは何か——その中東と世界への影響」と題して講演



本学の講義「海からみた産業と日本」の出版と放送授業に対する顕彰受賞者：池田龍彦・原田順子

学習センターの活動、この1年

入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間47,432名の学部生と5,063名の大学院生（うち、博士課程13名）が入学し、放送大学における学びへの第1歩を踏み出した。

学院生（うち、博士課程13名）が入学し、放送大学における学びへの第1歩を踏み出した。



宮城学習センター



秋田学習センター



山形学習センター



福島学習センター



茨城学習センター



栃木学習センター



埼玉学習センター



千葉学習センター



新潟学習センター



岐阜学習センター



兵庫学習センター



和歌山学習センター



鳥取学習センター



島根学習センター



岡山学習センター

特集

オンライン授業

教育

研究

国際交流

社会貢献

学習センター



徳島学習センター



香川学習センター



高知学習センター



佐賀学習センター



熊本学習センター

名誉学生への表彰

2010年4月に、放送大学の全コース(旧:5専攻)すべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰する目的で「名誉学生」という制度を設立した。

2017年度は、44名が名誉学生となった。名誉学生の資格を得たものは、3月の学位記授与式で学長表彰された。2017年度第2学期までに表彰された名誉学生

の累積人数は、314名である。

なお、2011年度の表彰より、全コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。

名誉学生には、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することができる等各種特典を付与している。

新任の学習センター所長

2017年度は14の学習センターで新たに学習センター所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展の為の活動に取り組んでいる。

新任の学習センター所長一覧

北海道学習センター	新田 孝彦(にった たかひこ)	長野学習センター	村上 好成(むらかみ よしまさ)
秋田学習センター	西田 眞(にしだ まこと)	静岡学習センター	藤井 史朗(ふじい しろう)
群馬学習センター	小野里 好邦(おのざと よしくに)	兵庫学習センター	大野 隆(おの たかし)
東京渋谷学習センター	宮本 文人(みやもと ふみひと)	広島学習センター	山田 隆(やまだ たかし)
神奈川学習センター	福富 洋志(ふくとみ ひろし)	山口学習センター	岡村 康夫(おかむら やすお)
新潟学習センター	新村 末雄(にいむら すえお)	佐賀学習センター	諸泉 俊介(もろいずみ しゅんすけ)
山梨学習センター	平山 公明(ひらやま きみあき)	宮崎学習センター	村岡 嗣文(むらおか つぐふみ)

学習センターで周年記念式典等を開催

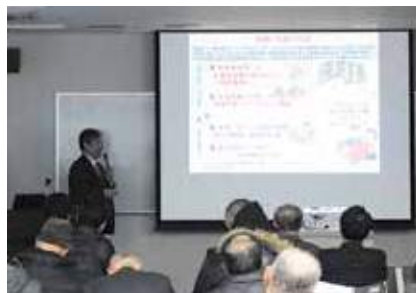
長野学習センターでは開設30周年、福島、茨城、福井、鳥取、山口の各学習センターでは開設20周年を迎えた。このうち茨城、鳥取、福井の3学習センターでの記念講

演会では来生学長が講演を行った。式典や講演等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。

茨城学習センター 記念式典での来生学長講演と郷土芸能「石岡ばやし」のアトラクション



福井学習センター 記念式典での来生学長挨拶と田城教授の記念講演



鳥取学習センター 記念講演と麒麟獅子舞



地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで3,276科目が開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する

授業が、大学教員に加えて各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 青森学習センター「環境と生物—種差海岸で考える—」
- 秋田学習センター「キネステティック」
- 山形学習センター「武道のすすめ」
- 福島学習センター「光と分子」
- 栃木学習センター「防災マネジメント」
- 千葉学習センター「民族文化論」
- 新潟学習センター「自動車構造の基礎」

- 岐阜学習センター「飛騨の匠の文化」
- 三重学習センター「足と履物の生理学」
- 滋賀学習センター「顕微鏡で見る人体」
- 和歌山学習センター「海・山・川が輝く世界遺産の新宮」
- 鳥取学習センター「知識と一緒にトマトもチョコキン」
- 島根学習センター「たたら製鉄をめぐる科学と文化」
- 岡山学習センター「瀬戸内の開発と地域・環境問題2」

- 香川学習センター「心理学実験1」
- 高知学習センター「クマムシの生物学」
- 福岡学習センター「大宰府史跡の保存と活用」
- 佐賀学習センター「吉野ヶ里から見た弥生の国際交流」
- 熊本学習センター「音楽の諸相」
- 宮崎学習センター「記紀・風土記から探る古代日向」



青森学習センター「環境と生物-種差海岸で考える-



秋田学習センター「キネステティック」



山形学習センター「武道のすすめ」



福島学習センター「光と分子」



栃木学習センター「防災マネジメント」



千葉学習センター「民族文化論」



新潟学習センター「自動車構造の基礎」



岐阜学習センター「飛騨の匠の文化」



三重学習センター「足と履物の生理学」



滋賀学習センター「顕微鏡で見る人体」



和歌山学習センター「海・山・川が輝く世界遺産の新宮」



鳥取学習センター「知識と一緒にトマトもチョコキン」



島根学習センター「たたら製鉄をめぐる科学と文化」



岡山学習センター「瀬戸内の開発と地域・環境問題2」



香川学習センター「心理学実験1」



高知学習センター「クマムシの生物学」



福岡学習センター「大宰府史跡の保存と活用」



佐賀学習センター「吉野ヶ里から見た弥生の国際交流」



熊本学習センター「音楽の諸相」



宮崎学習センター「記紀・風土記から探る古代日向」

集いの場としての学習センター

放送大学の学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけでなく、サークル活動や様々な共通関

事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。学習センターは学生の集う場ともなっている。

サークル・学生活動

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、

年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、素晴らしい体験となるであろう。



宮城学習センター「囲碁将棋大会」



秋田学習センター「さまざま展示会 in 湯上」



福島学習センター「福島登山サークル」



埼玉学習センター「ソーシャルダンスクラブ」



千葉学習センター「幕張祭での書道実演」



和歌山学習センター「俳句会」



鳥取学習センター「ジオ部・山陰海岸ジオパークに行く」



徳島学習センター「阿波の古を語る会」



高知学習センター「英語研究会」

文化祭

多くの学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。文化

祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



茨城学習センター「オリジナルソングとフォークソング演奏(ANAK)」



埼玉学習センター「同窓生を中心としたジャズ演奏」



千葉学習センター「第9回幕張祭」



新潟学習センター「コーラスサークルによる成果発表」



岐阜学習センター「学生作品展」



兵庫学習センター「作品展・写真展」



高知学習センター「美術展覧会」

学生研修旅行

全国の学習センターでは学生相互及び教職員の交流を図ることを目的として、学生研修旅行を実施している。



青森学習センター「八戸市博物館・史跡根城の広場ほか」



秋田学習センター「由利本荘市民俗芸能伝承館「まい〜れ」



山形学習センター「廃校を利用した食堂の前で」



福島学習センター「遠野市カッパ淵」



茨城学習センター「千葉県立房総のむら」



栃木学習センター「倍楽園(茨城県水戸市)」



埼玉学習センター「神奈川近代文学館」



千葉学習センター「千葉県立関宿城博物館」



東京多摩学習センター「史跡足利学校ほか」



新潟学習センター「日本遺産 出羽三山」



岐阜学習センター「興福寺・春日大社」



滋賀学習センター「鈴鹿の関宿と松坂の松坂城址、本居宣長記念館」



兵庫学習センター「淡路・伊弉諾神宮」



奈良学習センター「サントリー山崎蒸溜所などの見学」



和歌山学習センター「世界の名画と出会う旅“大塚国際美術館”&海上45m砲門の渦潮見学」



鳥取学習センター「松江城前にて」



島根学習センター「三江線に乗る・感じる・眺める」



岡山学習センター「北淡震災記念公園」



高知学習センター「伊弉諾神宮」



福岡学習センター「いのちの旅博物館」



佐賀学習センター「熊本城・熊本県立美術館(別棟)」



熊本学習センター「佐賀県伊万里市」



大分学習センター「八女市 星野村 茶の文化館」

地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。放送大学学生にかぎらず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また、ともに考える機会を

提供している。講師は、放送大学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は2017年度開催されたもののほんの一例である。

公開講演会・公開講座

学習センター	題目	講師
北海道学習センター	高度技術社会における生命のこれから～倫理学の視点から考える～	北海道学習センター所長 新田 孝彦
青森学習センター	目からウロコの健康の話	弘前大学特任教授 中路 重之
岩手学習センター	やさしく学ぶお天気科学～岩手の気象現象を中心として～	岩手大学教授 名越 利幸
宮城学習センター	東北はユネスコの宝庫 ～ユネスコから見た東北の自然・文化・教育遺産～	東京大学海洋アライアンス海洋教育 促進研究センター主幹研究員 及川 幸彦
秋田学習センター	波(きこえない音)と情報	秋田学習センター客員教授 今野 和彦
山形学習センター	出張市民講座「西郷隆盛と庄内」	山形学習センター客員教授 山本 陽史
福島学習センター	英語のボライトネス～日本語との比較を通して	福島学習センター客員教授 松浦 浩子
茨城学習センター	芭蕉が「おくのほそ道」に込めた思い-芭蕉自筆本に基づく新解釈	放送大学教授 魚住 孝至
栃木学習センター	「食品添加物」ってなに?～食品添加物を科学的に考えよう～	前・相模女子大学教授 三輪 操
群馬学習センター	生涯学習で広がる世界～ネット時代の大人の学び～	放送大学附属図書館長 岩永 雅也
埼玉学習センター	漢字の文化史	川口短期大学教授 大橋 修一
千葉学習センター	第九に至る声楽曲の壮大な歩み	(第一部)横浜国立大学 教授 茂木 一衛 (第二部)千葉大学 教授 山本 純ノ介
東京文京学習センター	心理学の可能性～行動経済学を知っていますか～	放送大学教授 森 津太子
東京足立学習センター	人類進化史の新たな展開～様々な「起源論」を巡って～	東京足立学習センター客員教授 松浦 秀治
東京多摩学習センター	やる気を育む心理学	放送大学教授 進藤 聡彦
東京渋谷学習センター	体も口ほどにものをいう 非言語コミュニケーションのあれこれ	放送大学准教授 大橋 理枝
神奈川学習センター	前近代社会の学びについて～日本の教育文化の伝統を求めて～	筑波大学名誉教授 大戸 安弘
新潟学習センター	佐渡の世阿弥～『金島書』にみる最晩年の思い	放送大学教授 魚住 孝至
富山学習センター	一生を自立して過ごせる体づくり	富山学習センター所長 北村 潔和
石川学習センター	「イスラム国」とは何か-その中東と世界への影響	石川学習センター所長 鹿島 正裕
福井学習センター	日本人と海～日本は海洋国家足りうるか～	放送大学長 來生 新
山梨学習センター	南極へのバーチャルツアー～観測隊員の視点から～	山梨大学准教授 小林 拓
長野学習センター	よくわかる 生活の中の化学	長野学習センター所長 村上 好成
岐阜学習センター	二つ目のアイデンティティ : 英国で学んだこと	放送大学客員教授 草光 俊雄
静岡学習センター	少子高齢化時代における育児支援政策 ～スウェーデンとアメリカを対比させて～	静岡大学名誉教授 船橋 恵子
愛知学習センター	放送大学の諸問題とビジョン'17	放送大学長 來生 新
三重学習センター	ヒトバライフルエンザ2型ウイルス(hPIV2)ベクターの作製とその応用	三重大学大学院医学系研究科講師 河野 光雄
滋賀学習センター	「続・近江探究」 近江の原風景～さまざまな町の世界～	滋賀大学名誉教授 秋山 元秀
京都学習センター	ジュゴン、ウミガメ、オオナマズをおいかけろ ～希少水圏生物の保護と共存～	京都大学教授 荒井 修亮
大阪学習センター	すべての子どもたちが生きられる未来を～子どもの貧困への挑戦～	放送大学副学長 宮本 みち子
兵庫学習センター	未来をあきらめない化学	兵庫学習センター所長 大野 隆
奈良学習センター	心理学への誘い「性格の話～自分と他者理解の座標軸～」	放送大学教授 小野 けい子
和歌山学習センター	2017連携公開講座「高野山学」	(第一回)高野山大学助教 浜畑 圭吾 (第二回)高野山大学助教 櫻木 潤 (第三回)高野山大学准教授 土居 夏樹
鳥取学習センター	パソコンで報告資料を作ってみよう～PowerPointによる～	鳥取学習センター所長 小林 一
島根学習センター	美術に親しむIV セザンヌの足跡を追う	島根学習センター所長 佐々 有生
岡山学習センター	出会いが学びを生み、学びが新しい出会いを生む～教育・研究生活を振り返って	岡山学習センター所長 岡田 雅夫
広島学習センター	健康増進を実践するための基礎知識 ロコモティブシンドロームが忍び寄る	広島学習センター客員教授 藤村 昌彦
山口学習センター	「近代日本」を考える～葛藤とその先に見えるものについて～	放送大学教授 魚住 孝至 山口大学教授 山口 林造 山口大学教授 佐野 之人 山口学習センター所長 岡村 康夫
徳島学習センター	トランプ政権と中東	放送大学教授 高橋 夫
香川学習センター	列島社会の転換を反映する四国東部(阿波・讃岐)の大形前方後円墳	徳島文理大学教授 大久保 徹也
愛媛学習センター	機械は「考える」ことができるか～人工知能を理解する(6)	愛媛学習センター所長 村上 研二
高知学習センター	宮本武蔵「五輪書」に学ぶ「勝つ」ことの極意	放送大学教授 魚住 孝至
福岡学習センター	【シンポジウム】 「心理学の今」を考える	筑紫女学園大学特任教授 針塚 進 九州大学大学院教授 中村 知靖 九州大学大学院准教授 池田 浩 九州工業大学学生総合支援室准教授 菊池 悌一郎
佐賀学習センター	女性の結婚と職業～フェミニズム運動の歴史～	佐賀学習センター所長 諸泉 俊介
長崎学習センター	学校は変わるか?～新学習指導要領の目指すもの～	長崎大学名誉教授 山路 裕昭
熊本学習センター	私が学んできたカウンセリングの道 ～大学カウンセラー42年を振り返って～	放送大学客員教授 田中 宏尚
大分学習センター	地方創生時代を切り拓く県都・大分市からの挑戦	大分市長 佐藤 樹一郎
宮崎学習センター	素晴らしい人間の脳の働き(認識)～コミュニケーションを科学する～	宮崎県立看護大学准教授 川村 道子
鹿児島学習センター	アンデスの古代文明と先住民の暮らし	放送大学教授 稲村 哲也
沖縄学習センター	まずは知っておきたいアドラー心理学	沖縄学習センター所長 富永 大介

データで見る 放送大学の概要

■ 役職員数 [単位:人]

役員	7	※1
学長	1	
副学長	3	※2
教員	82	
事務職員	246	
合計	337	※3

(2018年3月31日現在)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む

※2 副学長(理事)を含む

※3 重複があるため合計は一致しない

■ 在学生数 [単位:人]

教養学部

全科履修生	57,222
選科履修生	17,695
科目履修生	7,118
特別聴講学生(学部)	3,385
合計	85,420

(2017年度第2学期)

大学院

修士全科生	1,076
修士選科生	3,600
修士科目生	669
特別聴講学生(修士)	—
博士全科生	42
合計	5,387

(2017年度第2学期)

集中科目履修生

学校図書館司書教諭講習	788
看護師資格取得に資する科目	596
合計	1,384

(2017年度)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

■ 単位互換協定締結校数 [単位:校]

学校の種類	校数
大学院	8
大学	286
短期大学	87
高等専門学校	15
合計	396

(2018年3月31日現在)

■ 入学者数 [単位:人]

教養学部

	1学期	2学期	合計
全科履修生	7,061	3,902	10,963
選科履修生	11,474	6,149	17,623
科目履修生	6,225	7,118	13,343
特別聴講学生(学部)	1,285	3,385	4,670
合計	26,045	20,554	46,599

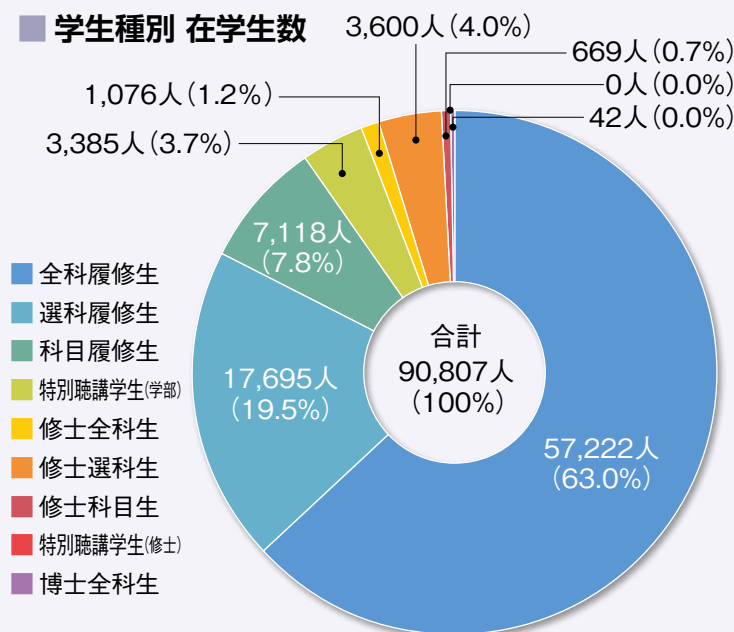
(2017年度)

大学院

	1学期	2学期	合計
修士全科生	385	—	385
修士選科生	2,514	1,047	3,561
修士科目生	451	669	1,120
特別聴講学生(修士)	—	—	0
博士全科生	10	—	10
合計	3,360	1,716	5,076

(2017年度)

■ 学生種別 在学生数



■ 学部卒業者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
2,122	3,584	5,706	100,215

(2017年度)

■ 大学院修士課程修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
8	314	322	5,535

(2017年度)

■ 大学院博士後期課程修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
4	4	8	8

(2017年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<https://www.ouj.ac.jp/>